

助 成 事 業 計 画 書

団体名	特定非営利活動法人えがおさんさん
事業名	休日お預かりデイ活動
① 事業目的・事業概要	<事業目的> どんな障害、また状態の子ども楽しく参加できる日中活動を開催したい。 ごきょうだいも参加し、オンリーワンを楽しんで頂きたい。 学生はじめ、異世代交流をしてほしい。 子どもたちをケアできる専門職(看護師・リハビリ・介護士等)がいることでご家族に安心してご自分の時間をとって頂きたい。 <事業概要> 難病・医療的ケアなど様々な障害のある児者とごきょうだいを年5回土曜日に10-15時でお預かり。 パルシステム東京様の部屋をお借りしケアに特化した医療福祉職者と学生ボランティアが対応。音楽など演者に講演依頼。お菓子やパンづくりや工作、ダンスなど計画。会場キッチンにて手作りの昼食を用意し皆で一緒に食事をとることも大切にしている。
② 地域課題	さまざまな難病・医療的ケアのある子ども達、障がい児が地域で生活できるようになってきたものの支援の手や社会参加先は追い付いていない現状がある。障がい児者、またそのごきょうだい児、それぞれのニーズは違い、親は常に対応に追われている状況がある。 障がいや症状の多様性、専門性の高さからケアできる人は限られてしまう状況がある。 ごきょうだいも一緒に、親と離れて参加できる場所もない現状がある。
③課題解決のための取組	・障害児・きょうだい児共に預かりができ、相互交流もできる場の提供。 ・日頃から障害児のケアに関わる医療福祉職者を確保することで、親が安心して任せられる。 ・多くの学生ヘルパー、また成人した知的障害、発達障害者もボランティアとして参加。世代間交流ができる。 ・きょうだい児にもマンツーマンでボランティアが付くことで日頃障害児者のきょうだい児として位置づけられやすい子どもと一緒に参加しながらもオンリーワンを感じてもらう。 ・実施事業の開催ニーズに理解を頂ける施設、団体との連携。 ニーズに即した会場をお借りする。 ・学生にも企画から関わってもらい、参加者一人一人が楽しく安全に参加できる企画と態勢の整備。 ・企画に賛同し、出演、また協力してくださる演者や撮影者を募る。 ・普段関わることの無い親同士、きょうだい同士が触れ合う場づくりを意識して提供する。 ・医療福祉に関心のある学生が社会の中で生活している障害者・きょうだい児と直接触れあう場を提供する。

④先駆性・専門性	・1995年頃から障害児者に特化した地域生活支援をしてきた。 ・2007年より小規模で障害のあるご本人、ごきょうだいの預かりを有志で開始。 ・日赤看護大学に学生サークルができ、学生ボランティアの確保ができるようになっている。 ・2010年にはWAM助成金で規模を広げて開催し優良事業として紹介頂く。 ・障害福祉の制度化も進み、放課後デイサービスや児童発達支援など事業化している。 ・草の根時代より法人の活動を理解してくださる新宿区社会福祉協議会様よりさまざまな団体をご紹介して頂いた一貫で2013年パルシステム東京様とつながることができ、事業運営に即した会場を利用できるようになった。 ・コロナ禍でも訪問事業と連携し希望のご家庭とオンラインで会をつなげ、ご家族の孤立、閉鎖への対応をとるなど実施した。 ・医療福祉専門職、学生、地域ボランティアの確保により障害のあるご本人ときょうだい児両方の預かりデイが開催できる。 ・長年の活動を通し、都度の話し合いで難病、医療的ケアのある重度障害児者、また知的障害、発達障害のある児者とそのご家族など多様な課題、ニーズへの対応やリスクマネジメントを図ることができる。
⑤ 具体的な活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)	I イベント(会議)の開催予定等 1. イベント(会議)名：(休日お預かりデイ活動) 2. 活動内容：日中お預かりデイ 3. 実施期間、回数：年5回 5/17, 7/19, 8/16, 12/20, 3/14 (5月初回は法人負担及び参加費で実施し後半4回分の助成を申請します。) 4. 実施場所：パルシステム東京 5. 周知(募集)方法、期間：SNS, チラシ配布 6. 対象者・定員数：難病、医療的ケア、知的障害、発達障害のある児者とごきょうだい児 : 10名 ※③④で述べたような会を安全に開催するために、都度実施体制の徹底を行っているため最低の定員を定めています。 7. 人員・スタッフ数 団体構成員 () 名 講師等 (延べ5) 名 アルバイト (延べ40名) 名 ボランティア (延べ50) 名 ※団体内外へ募集をかける。成人し作業所等で働いている知的障害、発達障害者も参加してもらう。 8. 安全対策等：感染対策備品の設置・準備 準備会議(勉強会)開催での参加者の状態把握、緊急時の対応共有 当日まで、また当日の流れ共有と動きのシミュレーション共有 デイ開催そのもののリスクマネジメントを共有する II イベント(会議)の開催予定等

	1. イベント（会議）名：（ ） 2. 活動内容： 3. 実施期間、回数： 4. 実施場所： 5. 周知（募集）方法、期間： 6. 対象者・定員数： 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（ ）名 講師等（ ）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等：
⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果 ・きょうだい児も学生ボランティアのマンツーマン対応で誰かのきょうだいとしてではなくオンリーワンの存在として対応。普段の関わりでは聞けない悩みなどをくみ取れる。 ・きょうだい児が地域の中では一人になってしまう状況があっても、この時は他のきょうだい児とも交流ができる。また多世代交流ができる。 - 学生に関わりは、障害当事者への影響、効果も著明で、覇気や意欲を引き出している。 ・ご家族、ごきょうだいも地域の顔見知りができることで孤立感の防止になる。
	イ 現状や課題に対する成果・効果 ・親の都合で子どもたちを預ける、より安全な環境へ本人たちが一人一人楽しく参加している間に親が自身の予定に集中できることで、日頃子育てやケアにばかり取られている親の気分転換、リフレッシュを図る。 - その上で送迎時に他の親との交流が図れる（特にお迎え時）。 ・これから医療福祉職につく若者たちが、地域生活のリアルに触れる経験ができる。 ・子どもたち、ご本人、ご家族の存在を専門職にも実際に認知してもらえらる。
⑦ 今後の展望	・活動の知名度が上がり、地域の課題やニーズが理解される。 ・関わる専門職が増える。 ・活動を知ってもらえることで、協力者や寄付者を増やし活動継続を図りたい。
⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ 2023 年度 ）事業名（ 秋まつり（会場リアル参加午前、午後とオンライン別日予定） ）

	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	☐ 有 ☒ 無
	有の場合は、助成名称（団体）及び助成額 助成名（団体名）： 助成額： 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

支出区分	費 目		予 算 額	内 訳
	事業費	①使用料及び賃借料	円	
		②消耗品及び印刷費	96,000 円	文具：テープ、ペン2400円 工作材料費 5600円 おむつ交換用の防水シート8000円 食材費400円×50×4=80,000円
		③委託費	30,000 円	写真撮影カメラマン外部委託
		④講師謝礼	280,000 円	演者4組 1組70,000円×4回
		⑤その他謝礼	320,000 円	ボランティア10名×3,000円（交通費含む）×4回=120,000 事前勉強会・反省会2回×4回：謝礼5000円×10名×4回=200,000
		⑥交通費	円	
		⑦保険料	円	
		⑧その他諸経費	40,000 円	荷物運搬費 10,000円×4回
		⑨感染症等対策経費	17,500 円	※上限額2万円以内 (20,000)
				手指消毒1,000円×4個=4,000円 マスク(100枚) 1500円 除菌ウエットティッシュ1,000円×8個=8,000円 除菌用スプレー 1,000円×4本=4,000
				※下記「事業費」の25%以内 (261,167)
		⑩人件費	261,167 円	医療職2,000円×6時間×4人×4回=192,000円 福祉職1,600円×6時間×4人×4回=153,600円
	事業費（①から⑩の合計）		1,044,667 円	
	⑪ファンドレイジングに関する経費		円	※事業費の5%以内 (52,234)
	⑫助成対象経費 （事業費＋⑪）		1,044,667 円	
	⑬助成対象外経費		84,433 円	84,433円（人件費）
	事業総額		1,129,100 円	

収入区分	内 容		予 算 額	積 算 根 拠（内 訳）
	㊦ 事業収入 （参加料、資料代等）		円	
	① 寄附金		円	
	㊧ 補助金等収入		円	
	㊦ 協働推進基金助成金		500,000 円	「①～⑨、⑪～⑫の合計」の2/3と「⑨」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊦ 団体負担金		629,100 円	
	収入総額		1,129,100 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんえがおさんさん 特定非営利活動法人えがおさんさん	
所 在 地 (主たる事務所)	〒 [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) たなか あゆみ 田中 歩	
	連絡者氏名 [REDACTED] 住所 [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] 電話 [REDACTED] FAX [REDACTED] e-mail [REDACTED]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 2007 年 1 月 その他の場合 1994 年 2 月活動開始 活動歴 31 年 か月 (年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人： 団体：	入会条件
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿 区・市 その他 (23 区内)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) ☒ (年 2 回発行) / 無	
	(ホームページ) ☒ (URL https://egaosunsun.com/) / 無	

団 体 の 目 的 (定款の目的)	特定非営利活動法人えがおさんさんは、重い病気や障害のある子どもも家に帰って家族と暮らせるように、制度の有無にかかわらず、子どもと家族の生活に寄り添う支援を行い続けて、約25年になる。当初は人工呼吸器をつけた子供の在宅生活を支援するボランティアグループとして出発し、2007 年1月に現在の法人格を取得。現在に至るまで医療的ケアのある子ども、知的発達障害の子ども、また子どもを育てるそれぞれの家族のニーズを大切にしながら、訪問看護、居宅介護、移動支援、放課後等デイサービス事業、医療的ケアの必要な重症児のための児童発達支援、放課後等デイサービス事業を実施。さらに制度に該当しないニーズに対しては、オーダーメイドの支援を行ってきた。また、当初からのボランティア精神を大切にえがおファンクラブ活動を職員有志で立上げ、学生ボランティアも含み障がい児者の居宅以外の居場所で楽しむことができるお祭り等のイベントを定期的に開催。一方法人として 2020 年度に中長期計画 5 か年計画を策定。 “障がい児者と家族のえがおを増やすことによって誰もがえがおで暮らせる社会を実現する”を法人のミッション(使命)と定め、ビジョンとして定めた①“障がい児者と家族が、自宅で安心して生活できる社会②障がい児者が自分の人生を自分らしく選択できる社会③障がい児者と家族を応援する人が増えることで、誰もが笑顔で暮らせる社会“の実現のため法人一丸となって事業活動に取り組んでいる。
主 な 活 動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動 ◆新宿区内での障害児や難病・重度障害児（医療ケア含む）への訪問看護、介護、放課後等デイサービス事業及び児童発達デイ、公的外の在宅支援・レスパイト支援（学習、遊びのサポート、外出支援など） ◆ごきょうだい支援・イベント企画運営 ◆区内外の障害児の親の会交流会支援 家族交流会支援事業・人工呼吸器をつけた子の親の会（会員の子）へのボランティア派遣等サポート支援 ◆区内で障害児や難病で医療ケアの必要な子どものモデルデイサービス事業の実施 ◆活動通信発行 上記以外の活動 ◆専門家によるボランティア研修開催 ◆区内外の障害児の親の会交流会支援 家族交流会支援事業・全国人工呼吸器をつけた子の親の会（会員の子）へのボランティア派遣等サポート支援
新宿区との連携実績	・ 部署名 子ども家庭課 地域コミュニティ課 ・ 連携事例 地域支援 ・ 連携した内容の詳細



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

難病、障がい、医療的ケアなどのある 子どもたち、ごきょうだい参加の 休日お預かりデー

特定非営利活動法人えがおさんさん
えがおファンクラブ事業部

2023/5/23



特定非営利活動法人えがおさんさん



1996年より、新宿区を中心に障がいのある子どもとご家族に寄り添い、訪問看護・介護・児童デイと、ボランティア事業を通して生活支援をしています。



こどものえがおで、
社会をえがおに。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

特定非営利活動法人えがおさんさん えがおファンクラブ事業



EFC
えがおファンクラブ

translate



特定非営利活動法人

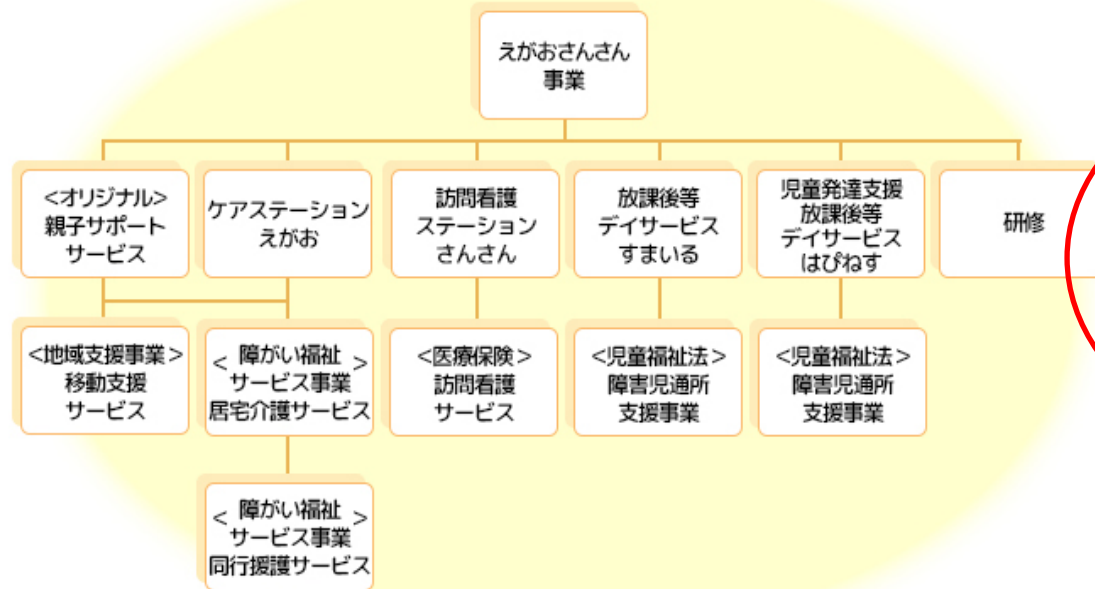
えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

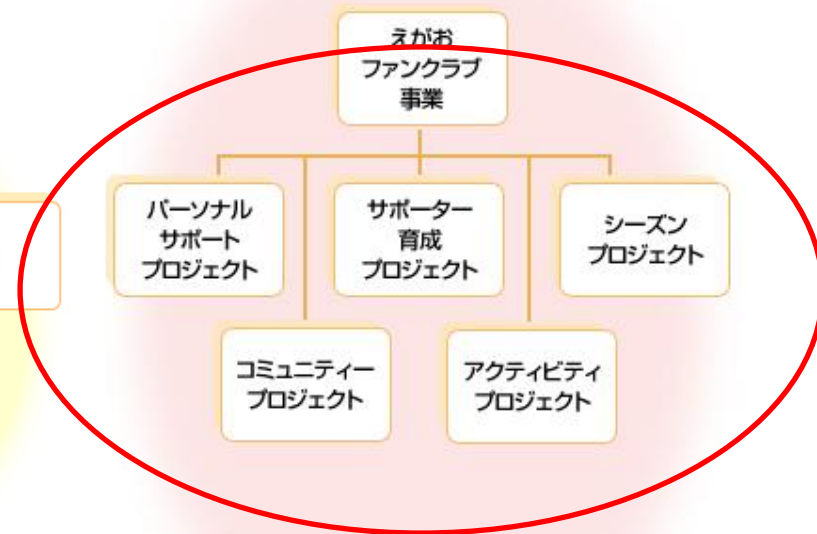
えがおファンクラブのサービス



えがおさんさん事業



独自のサービス えがおファンクラブ事業



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

重い障害のある子がいる 家族が抱える問題

制度だけでは足りない…

きょうだい児の育児に対応できない

家族の通院、用事に、休息のため
子どもを預かってもらえる環境が少ない

専門職からの熱心な指導に答えられず思い悩むが
誰にも話せない



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

障がいのある子どもとご家族の生活

日頃の関わりより見えること

- 難病、医療的ケアなど、重い障がいのある子どもを育てるご家族は、慢性的な睡眠不足や疲労を抱えています。病院とご家庭の両輪は欠かせず、他のご家族、きょうだい児の予定や、親御さんご本人の通院も難しい状況が見られます。個別性、専門性も高く預ける先が限られます。
- 知的、発達障がいのある子のご家族は、元気でエネルギー量が高い、またこだわりが強く、スムーズに生活が進まないなど、その対応にストレスや疲労が蓄積される傾向が見られます。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

申請事業の紹介

- ◆ ご本人、ごきょうだいどちらも参加でき、ご両親が一息つける事業を開催。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

申請事業の紹介と期待される効果



- ・障がいのあるご本人もごきょうだいも参加(預かれる)休日デイ。
- ・パルシシステム東京様ご協力による安全な空間。
- ・医療福祉専門職スタッフの常置。
- ・ごきょうだいも学生がマンツーマンで担当し、オンリーワンに楽しんでもらいます。
- ・学生ボランティアによる企画。
- ・親御さんにはご自身の時間を取ってもらいます。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

申請事業



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

外遊び

デイの買い物へ♪



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。



ダンス♪♪



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

みんなで作りました



小児、重心児者専門の
作業療法士さんと



★小児専門のナースが
いてくれるから
安心して実施できます

申請事業の紹介と期待される効果



- ・ 3月には家族写真の撮影会も計画します。
家族揃って、また親子で、プロのカメラマンによる記念撮影を実施。
- ・ 地域に公開開催し、区内の潜在的な当該者、ご家族と出会い、利用できる支援へつなげていく。
- ・ 子ども達、ご家族の理解者、支援者を増やしたい。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

ご家族が笑顔になると ✨



- 実は…お子さんたちもごきょうだいも、ご家族の大変さや疲労感を肌で感じています。
- 一日それぞれの時間を過ごして頂きたい。事業を通し、日頃から介護負担やストレスを抱えていらっしゃるご家族に、リフレッシュして頂く日となることを願っています。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。



ご清聴頂き、
ありがとうございました。



特定非営利活動法人

えがおさんさん

こどものえがおで、社会をえがおに。

助 成 事 業 計 画 書

団体名	認定 NPO 法人日本国際親善協会 こころのうた実行委員会
事業名	「こころのうた～Song of the heart」プロジェクト
① 事業目的・事業概要	<事業目的> 世界の国々～コミュニケーションツールの一つとしての「音楽」にスポットを当て、「音楽」がその国に興味を持つきっかけとなることで、相互理解へとつなげます。
	<事業概要> 本事業は、各国大使館のご協力のもと、日本在住の外国人が世界各国の代表的な「心の歌」「ふるさとの歌」をテーマに歌唱し、文化交流を深めることを目的としています。2025年4月1日、「こころのうた実行委員会」を設立し、「こころのうた～Song of the heart」という一つのテーマのもと、長期的な取り組みになるよう事業を行います。 まず、新宿区立大久保地域センターにて、小規模な歌の交流会（参加者 100名まで）を開催します。この場を通じて、子供からお年寄りまで、さまざまな世代の新宿区在住の外国人との相互理解を促進するとともに、当会の活動を広く認知していただく機会とします。 次に、2026年2月に新宿文化ホールで開催予定の幅広い世代の「心の歌」「ふるさとの歌」についてのフェスティバルに向けた楽曲募集を開始します（ホール抽選：2025年8月予定）。応募者には、音源または動画を LINE やその他 SNS ツールを通じて提出していただき、当会が審査を行います。審査基準は、歌唱力だけでなく、楽曲に込められた想いや表現力も重視します。子供からお年寄りまで幅広い世代の心の歌を集めます。選考を通過した方々は、本番のフェスティバルに出演することができます。（20名の定員に満たない場合は無条件に全員通過）選考されなかった方もフェスティバルの当日にご来場していただきます。 フェスティバルでは、より多くの外国人および日本人の方々に参加していただきたいと考えておりますが、ホールの使用時間に制限があるため、出場者は20名に限定します。観客はどなたでも無料で入場可能です。本番参加者には、賞状およびドリンクチケットを授与し、その努力を称えます。さらに、イベントの中で、観客を含めた全員が参加できる歌のコーナーも設けます（幸せなら手をたたこう、365歩のマーチなど）。 また、本番ステージに出場できなかった方々に対しても、歌を通じた定期的な交流の機会を設け、継続的なつながりを育んでいきます。本事業を通じて、次年度以降の「心の歌」イベントへの期待を高め、より多くの方々に参加していただけるよう努めてまいります。

② 地域課題・社会的課題	新宿区は、約 130 の国や地域からなる 4 万人を超える外国人が暮らしており、その割合は区民全体の約 13%に達しています。(令和 5 年度新宿区多文化共生実態調査.2024 年 2 月 7 日・https://www.city.shinjuku.lg.jp/tabunka/tabunka01_002063_00001.html?utm_source=chatgpt.com) この多様性は地域の活力となる一方で、以下のような課題も浮き彫りになっています。 外国人住民と日本人住民との交流機会が限られており、相互理解の不足が問題となっていると言われています。区内在住の 18 歳以上の外国人 5,000 人に対する多文化共生実態調査の中で、日常生活で困っていることについて特に多かったのは、「ことば」「友人が少ない」というものでした。このことから、交流のきっかけや場を求めていると考えられます。「日本人とつき合いがない」と答えた外国人が 50%を超えています。日本人とつき合いがない理由は「話しかけるきっかけがない」(70%近く)「つき合う場がない」(40%強)、などです。日本人高齢者の独居や孤立の問題が指摘されていますが、外国人高齢者の孤立もまた、日本国内において深刻な社会問題となっています。戦後の労働力不足を補うために移住した外国人や、国際結婚を経て日本に定住した方々が高齢化を迎えています。しかし、言語の壁や社会的支援の不足、地域コミュニティとの交流により、社会から孤立しやすいという問題があります。 区内在住する 18 歳以上の日本人と外国人それぞれ 5,000 人に対する調査の中で、「偏見・差別をなくすために必要だと思うこと」については、外国人住民と日本人住民双方において「お互いの文化を知る」ことが必要だという割合が 50%以上でした。外国人と日本人がお互いに同じ認識を持っていることから、文化理解の促進が双方にとって共通の課題であることがわかります。 新宿区で生活していく上で知りたい情報の調査において、「お祭り・スポーツなどのイベント」の回答が 50%近くという結果で、地域の文化・スポーツイベントに興味があることがうかがえます。このことから、日本人との接点を増やすイベントや活動に関心があるのではないかと推測できます。 そもそも、なぜ「多文化共生」が必要なのでしょうか。 現在、日本社会は少子高齢化や労働力不足といった課題を抱えているため、日本がこれからも安定し、発展し続けるためには、多文化共生を進め、外国人と日本人が共に支え合う社会を作ることが重要になっています。そして私たち日本人は、外国人がもたらす新しい視点や活力を前向きに捉える姿勢が必要だと考えます。 長年、新宿区は多文化共生のまちづくりを推進しており、外国人住民への多言語での情報提供や、日本語教室の開催、地域交流イベントの実施など、多様な施策を積極的に展開しています。しかし、新宿区が多文化共生のまちづくりをさらに進めるためには、行政、地域住民、NPO など多様な主体が連携し、外国人住民と日本人がお互いに安心して生活できる住みやすい環境を整えることが重要です。
---------------------	--

② 課題解決のための取組	新宿区の調査結果は「文化理解を深めることが、偏見や差別の解消につながる」という共通認識があることを示しており、それを促進する取り組みの必要性を裏付けていると言えます。 私たちは先述（「地域課題・社会的課題」の中）の「お祭り」「イベント」というキーワードに注目しました。日本国際親善協会の役割は、長年の国際支援・国際交流の経験を生かし、外国人と日本人との地域交流の場を設け、地域の問題解決に貢献していくことだと考えています。そこで、各国大使館のご協力の下、日本在住の外国人と日本人が、世界の国々の代表的な「心の歌」や「ふるさとの歌」をテーマに歌唱するイベントを開催します。音楽を通じた国際交流の場を提供し、参加者が互いの文化や背景を共有し、理解を深めることで、新たなつながりや友情が生まれることを期待しています。
③ 先駆性・専門性	【先駆性】 本事業は、新宿区において初めて外国人と日本人と一緒に「こころの歌」「ふるさとの歌」を披露し交流するイベントであり、単なる娯楽の場ではなく、お互いの文化を理解し合うための新しい交流の形を生み出す試みです。 【専門性】 長年にわたり国際交流に携わってきた経験を活かし企画・運営します。また、各国大使館、外国人支援団体、地域の文化交流団体と連携し、専門的な視点から多文化共生の促進に貢献します。
	I イベント（会議）の開催予定等

⑤ 具体的な活動

内容

(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)

1. イベント(会議)名: (「こころのうた～Songs of the heart」国際交流会)
2. 活動内容: 新宿区多文化共生プラザや大久保図書館等と連携し、こころの歌プレイベントを開催(日本人と外国人による歌についての文化交流) プロ歌手も参加。参加者は外国人と日本人で～100名程度を予定。
3. 実施期間、回数: 2025年9月20日(未定) 土曜日 回数: 1回
4. 実施場所: 新宿区立大久保地域センター(予定) <https://ookubocc.tokyo/>
5. 周知(募集)方法、期間: LINE・Facebook、プレスリリース、多文化共生プラザ・各国大使館への掲示、日本語学校等の教育機関、外国人の就労先企業等へチラシ送付等。(期間: 2025年7月1日～9月19日)
6. 対象者・定員数: 新宿区(またはその近隣地域、東京都内広域も可)在住の外国人、日本人で定員50名(安全上の理由、スムーズな運営のため50名程度予定)
7. 人員・スタッフ数
団体構成員(4)名 講師等(1)名
アルバイト()名 ボランティア()名
8. 安全対策等:
* 手指消毒の設置---会場入り口に手指消毒液を設置し来場者に消毒を促す。

- * マスク着用の推奨---必要に応じて来場者にマスクの着用を推奨。
- * 体温チェック---インフルエンザなどの感染症流行の場合、入場時に体温チェックを行い、発熱者の入場を制限

II イベント（会議）の開催予定等

1. イベント（会議）名：（「こころのうた～Songs of the heart」音源募集活動）
2. 活動内容：SNS 等を利用し、本人歌唱音源もしくは動画を送ってもらい審査
3. 実施期間、回数：2025 年 11 月 1 日募集開始～1 月 31 日（締切）
4. 実施場所：新宿区西新宿 1－19－8 新東京ビル 10 階日本国際親善協会内、こころのうた実行委員会事務局
5. 周知（募集）方法、期間： LINE・Facebook、プレスリリース、多文化共生プラザ・各国大使館への掲示、日本語学校等の教育機関、外国人の就労先企業等へチラシ送付等。（期間：2025 年 10 月 1 日～12 月 31 日）
6. 対象者・定員数：新宿区（またはその近隣地域、東京都内広域も可）在住の外国人、日本人
7. 人員・スタッフ数
団体構成員（ 4 ）名 講師等（ 1 ）名

アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名

8. 安全対策等：予選は対面式ではないので安全・感染対策はありません。

Ⅲ イベント（会議）の開催予定等

1. イベント（会議）名：「こころのうた～Songs of the heart」

2. 活動内容：イベントホール日本在住の外国人と日本人が、世界の国々の代表的な「心の歌」や「ふるさとの歌」をテーマに歌唱します。（アマチュア20名）プロ歌手（2名）参加。

3. 実施期間、回数：2026年2月28日（土曜日）

4. 実施場所：新宿区立新宿文化センター（小ホール） 予定 〒160-0022 新宿区新宿 6-14-1 Tel:03-3350-1141 <https://www.regasu-shinjuku.or.jp/bunka-center/>

5. 周知（募集）方法、期間：LINE・Facebook、プレスリリース、多文化共生プラザ・各国大使館への掲示、日本語学校等の教育機関、外国人の就労先企業等へチラシ送付等。（期間 2026 年 1 月 1 日～2 月 27 日）

6. 対象者・定員数：新宿区（またはその近隣地域、東京都内広域も可）在住の外国人、日本人。イベント参加者は 200 名程度。（内、歌を披露する方はアマチュア 20 名、プロ 2 名）

7. 人員・スタッフ数

団体構成員（ 4 ）名 講師等（ 2 ）名

アルバイト（ ）名 ボランティア（ 20 ）名

8. 安全対策等：

* 避難経路の確認・表示---全ての避難経路を事前に確認する（非常口の標識など）。

* 消火器の設置確認---場所と使用方法をスタッフと共有。

* 障害物の排除---移動の妨げとなるものを撤去し、通路や出口が塞がれないようにする。

* 照明の整備---暗くならないように照明を適切に配置。

* 困りごと対策---参加者の人数に応じて十分な数のスタッフを配置。即時対応できるようにする。

* 緊急連絡網の構築---スタッフ間で緊急時の連絡先・連絡方法を共有。

* 手指消毒の設置---会場入り口に手指消毒液を設置し来場者に消毒を促す。

	* マスク着用の推奨---必要に応じて来場者にマスクの着用を推奨。 * 体温チェック---インフルエンザなどの感染症流行の場合、入場時に体温チェックを行い、発熱者の入場を制限 * その他注意事項へのアナウンス---ゴミの持ち帰り、建物外観・内観の撮影禁止等アナウンスをする。 * イベント保険に加入：来場者、スタッフのイベント時の不測の事態（怪我、機材等の破損等）に備えて保険に加入。
⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果 新宿区民や地域社会にとって、多文化共生の意識を深める良い機会となることが期待されます。新宿区は外国人住民が多く、多様な文化が共存する地域ですが、日常生活の中で異なる文化圏の人々と深く交流する機会はまだまだ限られています。このイベントを通じて、日本人と外国人が互いの故郷の歌を披露し合うことで、言葉を超えた心の交流が生まれます。また、地域の日本人住民にとっては、外国人の文化や価値観を身近に感じる機会となり、理解や受け入れの姿勢が育まれることが期待されます。さらに、外国人にとっても、地域社会に溶け込み、日本文化に親しむきっかけとなるため、孤立を防ぎ、地域に対する愛着を深める効果が期待できます。この

	イベントは、地域の日本人と外国人双方にとって、共に楽しみ、つながる場を提供することで、より開かれた地域社会の実現に貢献します。
	イ 現状や課題に対する成果・効果 現状、新宿区には多くの外国人が居住しているにもかかわらず、彼らが日本人と積極的に交流する機会はまだ限られています。特に言語の壁や文化的な違いが、日常的なコミュニケーションを難しくしている一因となっています。また、日本人側も、外国人との関わり方がわからず、適切な接し方を模索している現状があります。そうした中で、今回のイベントは、音楽という共通の楽しみを通じて、言語や文化の違いを超えたつながりを生む場となるでしょう。歌を通じてお互いの文化を知ること、異文化に対する理解が深まり、無意識のうちに抱えていた偏見や先入観を和らげる効果も期待できます。イベントの成功を通じて、今後も継続的な多文化交流の場を設けるきっかけとなり、外国人と日本人がより自然に交流できる地域環境の整備につながると考えています。
⑦ 今後の展望	イベント終了後、来場者とイベントのボランティアスタッフに対し行うアンケートを実施。結果を踏まえ、さらにニーズに合った充実したイベントになるように、事業を継続して行なっていきたいと考えております。 本事業において3つの目標を立て計画的に行なう予定です。 1. 短期的: 新宿区内での定着・継続開催

	2. 中期的: 参加者の拡大・他イベントとの連携 3. 長期的: 新宿区を中心とした地域・全国への展開、多文化共生のシンボリックなイベント化 それぞれの詳細は以下の通りです。 1. 本事業は単発のイベントではなく、毎年継続的に開催し、幅広い世代の外国人住民と日本人が互いの文化を楽しみ、理解を深める場として新宿区、または周辺地域に根付かせることを目指します。また、将来的には地域の国際交流イベントや区の文化事業とも連携し、より多くの住民が参加できる場を提供していきます。 2. 今後はさらに多くの外国人住民と日本人が参加できるよう、対象者の拡大を図ります。特に、日本語学習者が日本の歌を披露し、日本人が外国の歌を歌うことで、お互いの文化をより深く知る機会を提供します。 3. 新宿区での成功をモデルケースとして、他の自治体や国際交流団体とも連携し、全国的な取り組みへと発展させることを目指します。また、オンライン配信を活用することで、遠方の外国人コミュニティとも交流し、より多くの人々に多文化共生の魅力を伝えていきます。
--	--

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	☐ 有 ☒ 無

⑨ この事業に対する他の助成の有無
(申請中のものを含む)

有の場合は、助成名称(団体)及び助成額

助成名(団体名):

助成額: 円

※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

費 目		予 算 額	内 訳
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	91,300 円	ホール使用料62,100円、第一楽屋2,600円、第二楽屋1,200円、照明3,200円、ピアノ使用料7,300円、音響調設備4,400円、スピーカー使用料6,500円、多目的ホール（地域センター）使用料4,000円
	②消耗品及び印刷費	24,536 円	チラシ印刷代5,428円/2,000枚、ポスター印刷代6,132円/大20枚、アンケート等印刷代300円/白黒500枚(片面Sharp MX5171)、カラーコピー代8,000円(両面16円×500枚/Sharp MX5171)、コピー用紙2冊1,031円、アンケート用クリップ鉛筆(200本)3,251円、両面テープ394円
	③委託費	0 円	
	④講師謝礼	0 円	
	⑤その他謝礼	150,000 円	翻訳謝礼金30,000円（6ヶ国語）、プロ歌手謝礼金60,000円（3名）出演者謝礼60,000円（3,000円分ドリンクカード×20名）
	⑥交通費	40,000 円	運営ボランティア・出演者等交通費（1,000円×40名）
	⑦保険料	17,250 円	イベント保険料(ケガ・機材破損)
	⑧その他諸経費	19,671 円	イベント告知DM郵送料13,200円/120通、参加者（出演者&スタッフ）用ミネラルウォーター6,471円(税率8%)/24 本入4箱(2025年イベント参加者50本/2026年イベント参加者46本/熱中症対策水分補給)
	⑨感染症等対策経費	15,109 円	※上限額2万円以内 (20,000)
			マスク834円（50枚入り1箱）、消毒液12,078円（1,098円×10本+消費税）、救急セット2,197円
	⑩人件費	100,000 円	※下記「事業費」の25%以内 (119,288)
			ボランティアスタッフ賃金（5,000円×20名）
	事業費（①から⑩の合計）	457,866 円	
収 入 区 分	⑪ファンドレイジングに関する経費	21,200 円	※事業費の5%以内 (22,893) Syncableファンドレイジングキャンペーンについての広報用印刷物8,000円/1000枚カラーコピー(両面16円×500枚/Sharp MX5171)、協会会員・関連機関向けDM送付代13,200円/120名
	⑫助成対象経費（事業費＋⑪）	479,066 円	
	⑬助成対象外経費	30,000 円	交流会飲食代（概算）
	事業総額	509,066 円	

内 容		予 算 額	積 算 根 拠（内 訳）
収 入 区 分	㊦ 事業収入（参加料、資料代等）	20,000 円	フェスティバル参加料1,000円×20名
	① 寄附金	133,500 円	Syncableキャンペーン（クラウドファンディング）目標設定金額150,000円－手数料等11%
	㊵ 補助金等収入	0 円	
	㊴ 協働推進基金助成金	324,000 円	「①～⑨、⑪～⑫の合計」の2/3と「⑨」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊳ 団体負担金	31,566 円	
	収入総額	509,066 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) にんてい えぬぴーおーほうじん にほんこくさいしんぜんきょうかい 認定 NPO 法人 日本国際親善協会	
所 在 地 (主たる事務所)	[REDACTED] [REDACTED]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) いせ ひろあき 代表理事 伊瀬 洋昭	
	連絡者氏名 [REDACTED] 住所 [REDACTED] 電話 [REDACTED] FAX [REDACTED] e-mail [REDACTED]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 2002年 5月 (NPOの認証) ※2023年3月28日認定NPOとして承認を得る その他の場合 1998年7月活動開始 活動歴 26年9か月 (2025年3月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	役員 13名	入会条件 会の目的に賛同し、会費を収め、承認を受けた個人および団体
主 な 活 動 地 域	東京都新宿区、その他国内・海外各地 (ベトナム社会主義)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) ☒ (年 4回発行) / 無	
	(ホームページ) ☒ (URL https://www.word.jifa.org/) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	目的(定款より抜粋) 第3条 この法人は、日本と世界各国の市民同士が人的ネットワークを通じて、国際交流 及び国際協力に関する事業を行い、友好関係の発展に寄与することを目的とする。 (特定非営利活動の種類) 第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。 (1)保健、医療又は福祉の増進を図る活動 (2)文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 (3)国際協力の活動 (4)子どもの健全育成を図る活動 (5)環境保全を図る活動 (6)職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動 (7)前各号の掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	

主 な 活 動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動： 新宿区民もしくは近隣在住の外国人向けに日本語教室を隔週土曜日に開催。積極的に日本語を学びたい人を対象に、都内の大学生や社会人のボランティアスタッフが指導する日本語学習や異文化交流を目的としています。この活動は、特に国際化が進む現代社会において、移民や外国人労働者の増加、多様な文化圏からの人々との共存が進む中で、社会貢献の一つとして重要だと考えています。 上記以外の活動 1. 国際交流事業：各国の文化、芸術、スポーツ、社会活動などの国際交流事業（ベトナムフェスティバルin代々木公園への出展、ベトナム・日本間の公正で倫理的なリクルート『ゼロフィープロジェクト』の推進、ベトナム大使館主催イベントに協力など） 2. 教育支援事業：ベトナムのこどもたちや学生の学業支援・奨学金の交付、教育支援事業（ベトナムへの日本語教師派遣、日本文化体験指導、“いじめ”問題に関するワークショップ開催、ベトナム教育機関においてイベント参加もしくはプロデュース） 3. 文化紹介事業：各国の社会経済状況調査及び紹介、国際協力事業普及のための会報（JIFA NOW）などの文化紹介事業
新宿区との連携実績	・部署名 新宿区 地域振興部 多文化共生推進課 ・連携事例 「新宿区多文化共生連絡会」に定期的に参加しております。 ・連携した内容の詳細 「しんじゅく多文化共生プラザ」において多文化共生連絡会に毎回参加しており、多文化共生に関する活動をしている団体との情報交換や意見交換等の活動を積極的に行なっています。



EDUCATIONAL SUPPORT

こころのうた ～ Song of the Heart プロジェクト

認定NPO法人日本国際親善協会

こころのうた実行委員会

事前質問①

審査方法について

■ 審査員について

当団体にはプロの歌手・ピアニストなど音楽関係者が多数在籍
今回の審査は、専門知識と経験を持つ方々に依頼

■ 審査の目的

技術的な優劣ではなく、「表現力」や「想い」を重視
参加者一人ひとりの歌に込めた気持ちを大切にします

■ ご理解いただきたい点

発表会としての一定の音楽的基準は必要
音程・リズムが著しく不適切な場合、参加をお見送りすること

■ 評価の視点

現時点の完成度だけでなく、本番までの成長も評価
公正で温かい評価を心がけます

事前質問②

イベント参加者の範囲について

■ 会場参加の対象者

新宿区自治基本条例第2条に定める「区民」を対象

- 区内に住む人
- 区内で働く人・学ぶ人・活動する人・活動団体

■ 後日WEB配信の実施

フェスティバルの様子を後日、紹介

- 対象： 会場に来られない区民 / 新宿区を訪れる外国籍の人々/
多文化交流に関心のある人々ほか

■ 補足

- WEB配信にかかる費用は助成金の対象外



事業のコンセプト

世界の国々～コミュニケーションツールの一つとしての「音楽・歌」にスポットを当て、「音楽・歌」がその国に興味を持つきっかけとなることで、相互理解へとつなげます。

子供からお年寄りまで幅広い世代の参加を促し、音楽・歌を通じて多文化共生を目指す事業です。

事業概要

- ① 2025年4月: 「こころのうた実行委員会」設立、「こころのうた～Song of the heart」をテーマに長期的な取り組みを開始。
- ② 2025年9月（予定）: 新宿区立大久保地域センターで小規模な歌の交流会を開催し、活動の認知度向上と地域在住外国人との相互理解を促進（参加者100名まで）。
- ③ 2025年9月開始（予定）: 2026年2月に新宿文化ホールで開催予定のフェスティバルに向けた楽曲募集を開始。LINEなどのSNSで音源・動画を提出、歌唱力・想い・表現力で審査
- ④ 2026年2月: 新宿文化ホールで「こころのうた・ふるさとのうた」フェスティバルを開催。選考通過者20名が出演、観客は無料。出場者には賞状とドリンクチケット、全員参加の歌のコーナーも実施。イベント終了後、こころのうた冊子作成、PDF等無料配布。ホームページ等で普及。
- ⑤ 継続的な取り組み: 本番に出場できなかった人のための定期的な交流機会を提供し、次年度以降のイベントへの参加を促進。



What…
どんなことをするの？

活動内容 1



イベント概要

新宿区民である外国人と日本人による交流会



日程

2025年9月（未定）



場所

大久保コミュニティセンター
（多目的ホール） 予定

What… どんなことをするの？

イベント１：国際交流会（大久保地域センター）
歌ったり、おしゃべりしたり、
書道をしたり、茶道をしたり…
日本人と外国人が交流できる場をつくります。





What...

どんなことをするの？

活動内容 2



イベント概要

日本在住の外国人と日本人による
「こころのうたSong of the heart」
フェスティバル



日程

2026年2月28日 13:00～



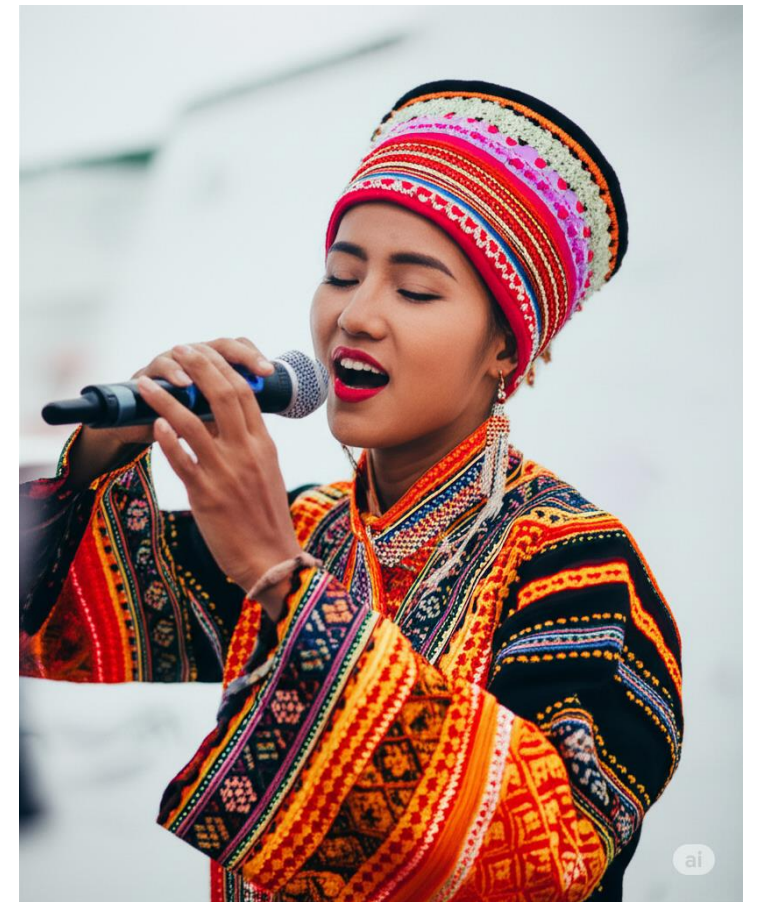
場所

新宿区文化センター（小ホール）予定

What... どんなことをするの？

イベント2：「こころのうた～Song of the heart」フェスティバル

日本在住の外国人が世界各国の代表的な「こころの歌」
「ふるさとの歌」をテーマに歌唱



発表のポイント

- ① その国の誰もが知っている代表的なうた
- ② 曲にまつわるエピソード（公のもの～個人的なものどちらでも）

How … 事業の進め方



交流会



一次審査 LINE・SNSで音源提出

審査基準: 歌に込める想いと表現力を重視



本番 ホールでの発表会・賞状授与



成果物 『こころのうた』冊子、PDFの無料配布
ホームページ等で普及



継続



Why...

なぜやるの？

事業目的

世界の国々～コミュニケーションツールの一つとしての「音楽・歌」にスポットを当て、「音楽・歌」がその国に興味を持つきっかけとなることで、相互理解へとつなげます。



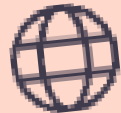
相互理解

異文化間の友好関係構築



国際交流

音楽・歌を通じた
国際的つながり



音楽・歌の力

コミュニケーションツール
としての音楽・歌



区内在住の18歳以上の外国人5,000人に対する多文化共生実態調査

新宿区が多文化共生の現状

130

国・地域数

多様な文化背景の住民

4万人

外国人住民

区民の約13%を占める

No1

ニーズ

「日本人と日本語で話したい」

※ 令和5年度新宿区多文化共生実態調査（2024年2月7日）



【課題】

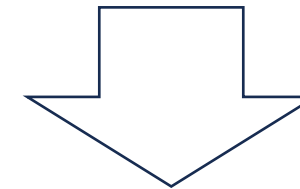
- 日本人との交流の機会が足りない
- 生活で困っていること：
ことば
友人が少ない
- 50%以上が「日本人とつき合いがない」と回答

【理由】

- 話しかける機会がない
(70%)
- 知り合う場がない
(40%+)

【行事への関心】

- 地域イベントへの興味が
高い (約50%)
- 日本人との接点を求め
ている



【解決に向けて必要なこと】

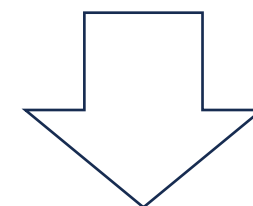
- 偏見、差別をなくすには「お互いの文化を知ること」
- 日本人も外国人も、50%以上が同意

【なぜ必要か】

- 日本社会は少子高齢化、労働力不足の問題を抱える
- 外国人と共に支え合う社会の実現が急務

【高齢化による孤立も】

- 外国人高齢者も孤立が深刻化
- 言語の壁、支援不足、地域社会との分離

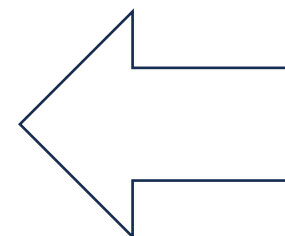


【今後の方向性】

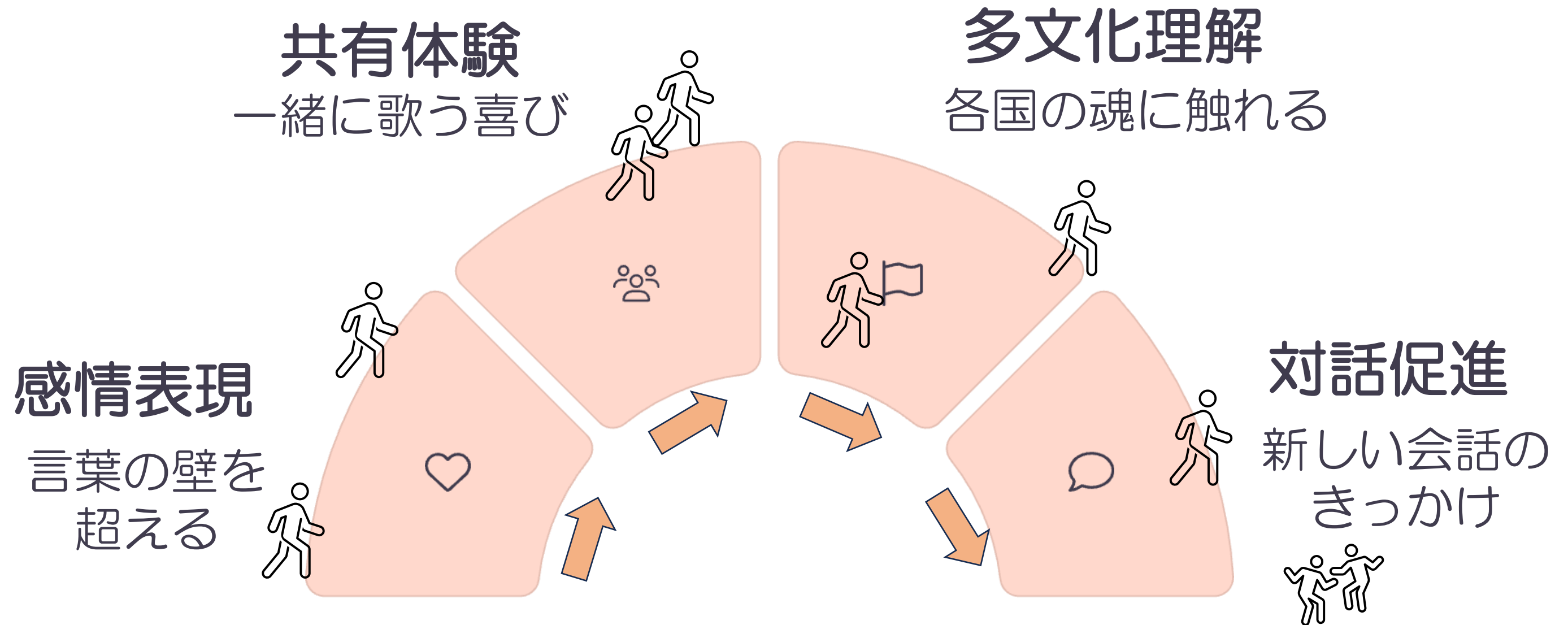
- 行政、地域住民、NPOなどの連携
- 多様な主体による現場レベルでの多文化共生の実現

【新宿区の取り組み】

- 多言語情報提供
- 日本語教室
- 地域交流イベント



音楽・うたが架ける国際交流の橋



イベントがもたらす効果



交流促進

自然な出会いの場の創出



意識変化

多文化共生理解の深まり、アイデンティティ再認識



コミュニティ形成

継続的な関係構築



日本国際親善協会の強み

豊富な経験

長年の国際支援・交流活動

ネットワーク

外国人コミュニティとの
信頼関係

在日大使館・在外大使館
海外行政機関との連携

地域貢献

社会課題解決への取り組み

これまでの国際交流活動



日本文化イベント
相互文化理解の促進



ベトナム農村地域での音楽交流・文化交流
現地の生活環境改善支援



浄水装置の提供による安全環境支援
現地の生活環境改善支援



ベトナムでの学資支援
子どもたちの教育機会確保



学資支援生徒とのうたの交流
うたを通じたところの交流（ふるさと♪）

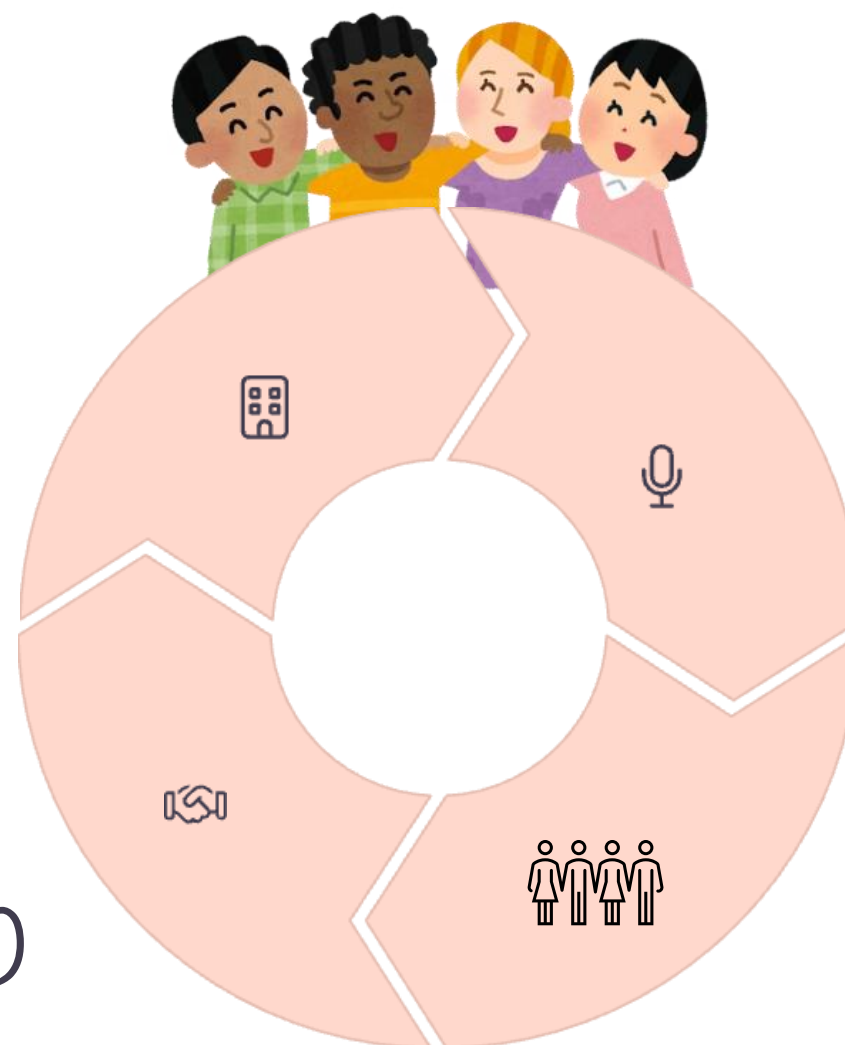
私たちができることをTRY！
音楽・歌を通じた国際交流の場を提供

大使館連携

各国とのつながり

つながり創出

新たな友情の始まり



歌の共有

心のうた
ふるさとのうた

文化交流

背景や思いの共有

【先駆性】

本事業は、新宿区において外国人と日本人と一緒に「こころの歌」「ふるさとの歌」を披露し交流する画期的なイベントであり、単なる娯楽の場ではなく、お互いの文化を理解し合うための新しい交流の形を生み出す試みです。

【専門性】

長年にわたり国際交流に携わってきた経験を活かし企画・運営します。また、各国大使館、外国人支援団体、地域の文化交流団体と連携し、専門的な視点からも多文化共生の促進に貢献します。

【展望と目標】



アンケート実施

来場者・ボランティアにアンケートを実施
結果をもとに改善し、事業を継続予定

- 1：短期的: 新宿区内での定着・継続開催
- 2：中期的: 参加者の拡大・他イベントとの連携
- 3：長期的: 新宿区を中心とした地域・全国への展開、
多文化共生のシンボリックなイベント化

【今後の方針】

単発でなく毎年継続開催

世代を問わず日本人・外国人が文化を楽しむ場を提供

地域の国際交流や文化事業とも連携

日本語学習者と日本人が互いの歌を披露し、文化理解を促進

イベントに対する安全対策について

避難経路と消火器の確認、障害物の排除、照明の整備、十分なスタッフ配置、緊急連絡網の構築を行います。

感染症対策として、手指消毒、マスク推奨、必要に応じた体温チェックを実施します。その他、ゴミの持ち帰りなどをアナウンスします。

不測の事態に備えてイベント保険に加入します。

ご清聴ありがとうございました

認定NPO法人日本国際親善協会

こころのうた実行委員会

助 成 事 業 計 画 書

団体名	特定非営利活動法人ほっとステーション
事業名	しんじゅく介護つながりサロン —地域ぐるみの潜在的介護者掘り起こし運動—（仮）
① 事業目的・事業概要	<事業目的> 新宿区内で深刻化する介護人材不足の解消と、地域に根ざした介護ネットワークの形成を目的とする。潜在的介護者（資格保有者・興味関心層・学生など）を可視化し、地域の介護事業所・団体へつなぐ仕組みを構築する。 <事業概要> 新宿区内で介護人材を発掘・育成するため、ほっとステーションが定期的にテーマ型サロン（小規模なんでも相談会を含む）を開催。参加者は希望に応じてオンラインで登録し、就職・研修・ボランティアなど多様な関わり方に繋げる。登録情報は新宿区内の介護事業所・団体に共有・紹介し、地域全体の人材循環を促進。行政の研修制度や広報支援も活用し、地域ぐるみの仕組みづくりを進める。
② 地域課題・社会的課題	1. 全国的な介護人材不足の深刻化：2025年に25万人、2040年に57万人の不足が予測されている（※1） 2. 訪問介護を中心とした人手不足：採用段階での不足感が強く、特に訪問系事業所で顕著（※2） 3. 介護事業者の倒産増加：2024年は過去最多、特に小規模訪問介護事業者が人手不足などにより淘汰傾向（※3 東京商工リサーチ・読売新聞） 4. 新宿区内の登録人材の未活用：シルバー人材センターや社協に介護ボランティアなどの登録はあるが、実際のマッチングが弱く、現場で十分活かされていない
② 課題解決のための取組	1. 定期的な相談会やサロンを継続開催（相談・情報提供・交流・啓発の場）し、先輩介護者の声・学生発信・就職支援・ボランティア入口など多様な動機づけを提供。サロンではミニセミナー、なんでも相談などを行い、その様子はアーカイブ動画として記録・発信。 2. オフラインでの相談を元に登録者の関心・意向・属性を整理し、新宿区内事業者とマッチング 3. 来場者を対象に希望者登録制度を運用し、エントリー情報を管理
③ 先駆性・専門性	1. 地域住民全体を対象とした開かれたアプローチ（属性・年齢不問） 2. ボトムアップによる「つながり重視」型人材発掘モデル 3. 行政・NPO・事業者・大学と連携した多機関協働の仕組み

⑤ 具体的な活動 内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)	I イベント（会議）の開催予定等 1. イベント（会議）名：(しんじゅく介護つながりサロン(仮)) 2. 活動内容：サロンという場を活用し、潜在的介護者向け情報提供、介護の魅力紹介、先輩介護者の話、ボランティア体験案内、就職相談などを行う 3. 実施期間、回数： ・2025年6月より月小規模なんでも相談会（月例）を開催 ・2025年7月に第1回テーマ型サロン開催予定（その後定期開催計画） 4. 実施場所： ・ほっとステーション事務所 ・その他地域施設（新宿 NPO 協働推進センターなど） 5. 周知（募集）方法、期間：チラシ・ポスター配布、SNS、ホームページ、動画配信（録画）など 6. 対象者・定員数：新宿区在住の高齢者、潜在的介護者（定員 20～30 名/回） 7. 人員・スタッフ数： 団体構成員（ 3 ）名 講師等（ 5 ）名 アルバイト（ 2 ）名 ボランティア（ 10 ）名 8. 安全対策等：参加者の体調管理、感染対策、緊急連絡体制の確立
	II イベント（会議）の開催予定等 1. イベント（会議）名：(しんじゅく介護つながりサロンなんでも相談会) 2. 活動内容：「しんじゅく介護つながりサロン」の一環として、参加者が関心や不安を気軽に話せる小規模な“なんでも相談会”を隔月開催する。テーマ型サロンとは別に、柔らかな雰囲気自由に相談できる場を提供し、介護への第一歩を支援。相談対応を通じて希望者には登録制度を案内し、就業・ボランティア・研修等への関わりを促す。関係機関との連携により、専門職による相談体制も整備する。 3. 実施期間、回数：2025年6月～2026年3月にかけて隔月1回（計5回程度）実施予定 4. 実施場所：ほっとステーション事務所、オンライン会議併用 5. 周知（募集）方法、期間：チラシ、ポスター、SNS、サロン参加者への案内、関係機関からの紹介等を通じて実施 6. 対象者・定員数：新宿区内在住・在勤の地域住民（10名程度／回） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（ 2 ）名 講師等（ ）名 アルバイト（ 2 ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等：オンラインツールを活用し、対面の際は感染対策・緊急対応フローを整備

⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果
	✓ 地域住民の介護参画意識向上と支え合い意識の醸成 ✓ 高齢者・若年層を含めた新たな社会参加機会の提供 ✓ サロンを通じた居場所・つながりづくりの推進
	イ 現状や課題に対する成果・効果
	✓ 登録者の可視化と新宿区内ネットワーク化によるマッチング促進 ✓ ボランティア・研修・就労など多段階の介護参入促進 ✓ 登録者と事業者をつなぐ情報インフラ（名簿）の構築
⑦ 今後の展望	✓ 登録者の増加・多様化に合わせた分類・運用の拡張 ✓ 事業所・団体間の紹介制度（連絡シート・推奨制度）導入 ✓ 映像アーカイブやサロン記録を活用した新宿区内外への展開 ✓ 大学・高校への登壇依頼や実習・ボランティア機会創出 ✓ 「サロンを核とした地域型人材循環モデル」として確立 ✓ 将来的に新宿区全体での協働ネットワーク・研修・広報事業への発展

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	☐ 有 ☒ 無
	有の場合は、助成名称（団体）及び助成額 助成名（団体名）： 助成額： 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

※1：厚生労働省 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

<https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/001274769.pdf>

※2：日本総合研究所（JRI）

https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/20230728seminar_03.pdf

※2：東京商工リサーチ

https://www.tsr-net.co.jp/data/detail/1200835_1527.html

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんほっとすてーしょん 特定非営利活動法人ほっとステーション	
所 在 地 (主たる事務所)		
代 表 者 氏 名	(ふりがな) たかぎ ゆみこ 高城 由美子	
	連絡者氏名 住所 電話 FAX e-mail	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 平成 11 年 8 月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 (年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 15 人 団体: なし	入会条件 本会の目的に賛同し、所定の手続きを経て会費を納入すればだれでも会員となることができる。 正会員: 本会の目的に賛同して入会した個人 運営会員: 本会の運営に携わる正会員とし、特定非営利活動促進法上の社員 賛助会員: 本会の事業を賛助するため入会した個人又は法人、団体
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿区・市 その他 (中野区、目黒区)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / (無)	
	(ホームページ) (有) (URL https://hothot.jp) / 無	

団 体 の 目 的 (定款の目的)	「助けられたり・助けたり」の助け合いの精神に基づき、受け手と担い手が対応な関係を保てる福祉サービス活動を通じて、豊かで住み良い地域社会の福祉の増進と、まちづくりの推進を目的としている。
主 な 活 動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動 介護保険法に基づく居宅サービス事業・居宅介護支援事業・地域密着型サービス事業・地域密着型介護予防サービス事業として、訪問介護、居宅介護支援、認知症対応型通所介護事業を行っている。 上記以外の活動 中野区にて認知症対応型共同介護、目黒区にて小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護事業を行っている。
新宿区との連携実績	・ 部署名 福祉部・介護保険課／福祉部・地域包括ケア推進課 ・ 連携事例 介護保険サービス事業実施／訪問介護における介護予防・日常生活支援総合事業、リフレッシュサービス等実施 ・ 連携した内容の詳細 事業所としてサービス実施

特定非営利活動法人ほっとステーション

令和7年度新宿区協働推進基金助成金への応募

地域ぐるみの潜在的介護者掘り起こしプロジェクト発足

2025年5月26日

目次

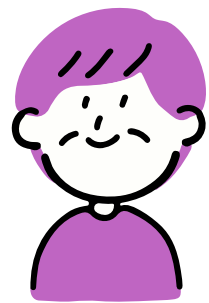
1. ほっとステーションについて
2. 企画メンバー紹介
3. なぜこの活動をはじめようと思ったか
4. この活動の目的は
5. どんな活動をしたいか
6. 実施計画



ほっとステーションについて

法人名	特定非営利活動法人ほっとステーション
設立	1998年（新宿区）
理念	『助けられたり・助けたり、住み慣れた町で暮らしていきたい』という思いのもと、相互に学び合い、豊かで住み良い地域社会を創り出していくことを目指しています。発足当初から、特に認知症介護に力を入れてきました。
事業内容・拠点	【新宿区】 ・ 認知症対応型デイサービス ・ 居宅介護支援事業所 ・ 訪問介護事業所 【中野区】 ・ グループホーム『ほっとステーション鉄庵』（弥生町） 2005年6月開設（中野区プロポーザル事業） 2ユニット／定員18名 【目黒区】 ・ 田道在宅ケア多機能センターの運営 2020年4月より目黒区の指定管理事業として開始

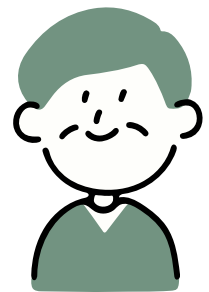
事業メンバー紹介



高城 由美子

代表理事

プレゼンター



芳根 聡

訪問介護管理者



孫 知営

『困っている目の前の人を助きたい』

『認知症の方は, もはやラブなので。人間としての素というか、そのものが愛しいのです』

2010年に法人へ入職。

認知症対応型通所介護、訪問介護、グループホーム、居宅介護支援事業などの現場を経験し、2021年より代表理事として法人運営を担う。

介護の現場経験を基盤に、NPOのミッション「地域の共助」を推進できる仕組みづくりに力を注いでいる。

【保有資格】

- 社会福祉士/ 介護福祉士/ 介護支援専門員

『この10年、現場で訪問介護ヘルパーとして従事してきました』

『地域に根ざした介護サービスによるコミュニティの復興を考えています』

【前職歴・経歴】

1987～1991年 株式会社バンダイ青山246クラブ プロデューサー

1992～2009年 株式会社スーパー・タンク代表取締役・プロデューサー

【主な実績】

- JR東日本×自治体・企業コラボ観光広告&イベント企画制作
 - びゅう商品券キャンペーン、KIRIN原宿駅ライトアップ、長野県観光イベント『ミステリアス信州』、宇都宮市『餃子の町・観光マップ』など
- 新聞社広告制作
 - 毎日新聞社・読売新聞社・朝日新聞社など
- デジタルコンテンツ企画・運営
 - インターネット万博 / 日経新聞「経済の肝」/ S&B子ども研究サイト（消費者のためになる広告賞 デジタル部門大賞） / ライブドア『デイリー4コマ』など
- 2001年経済産業省主催「東京コンテンツマーケット」
 - グランプリ・キャラクター賞・企画賞の三冠受賞

- ほっとステーションとのご縁から、地域連携イベントの企画メンバーとして活動中
 - 令和6年11月21日の新宿区主催・介護入門&おしごと相談会でほっとステーションと出会う
- 現在：WDTTにて介護関連プロダクト企画
- 前職：LINE株式会社（現：LINEヤフー株式会社）、株式会社バンダイナムコエンターテインメント

ほっとステーション

なぜこの活動をはじめようと思ったか

公共の制度との齟齬
民間の利益追求

新宿の特殊性

声の出せない利用者さん
(地域住民)

ヘルパーの現場から生まれる話を聞いていただくことで、
目の前の現実が少しよくなる方向に向かえば、という希望からです。

ヘルパーの受難

移動時間
休みが取れない
個人の責任感に頼る

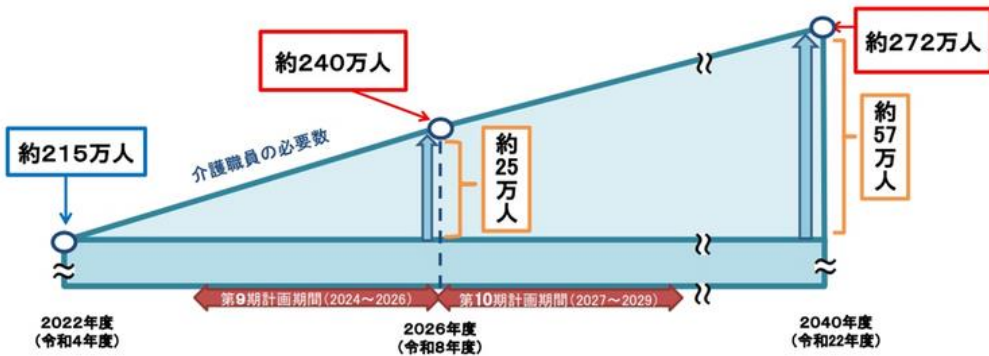
地域の問題は
地域で解決できないか？
コミュニティの復興

10年前から2025年問題といわれてきた。今年は2040年問題といわれている。

01

介護人材の需給ギャップが深刻化

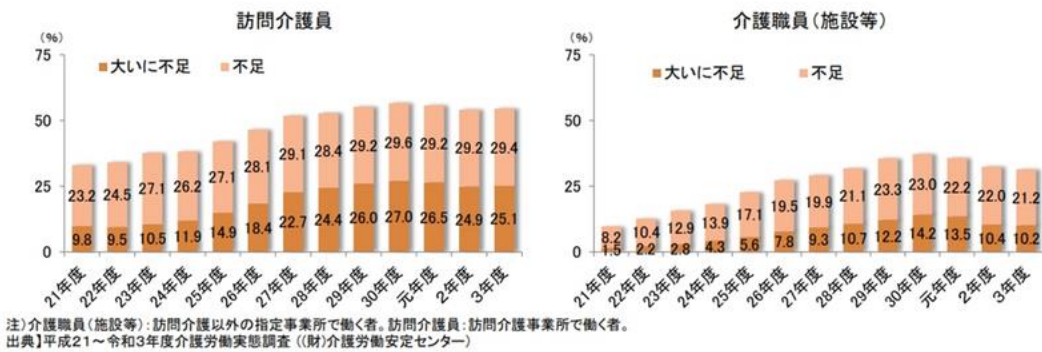
厚生労働省の試算では、2025年に約25万人、2040年に約57万人の介護職員が不足する可能性があり、介護職員の需給ギャップが深刻化しつつあります。



02

訪問介護の人手不足感が突出

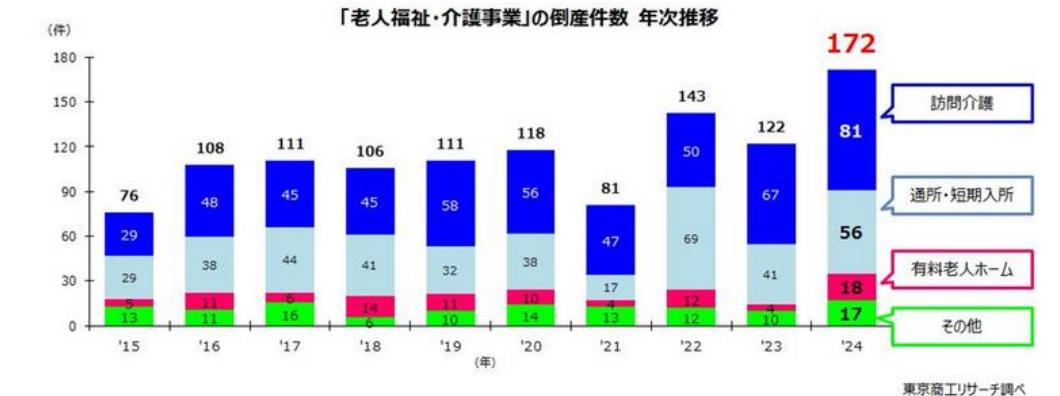
その一方で、人手不足感については、種別としては訪問介護の不足感が強く、採用段階での不足感が強いとされています。



03

訪問介護事業者の倒産が急増中

2024年「介護事業者」倒産が過去最多の172件、中でも「訪問介護」が急増し、小規模事業者の淘汰が加速しています。



まず、地域の潜在的介護者とは、ボランティア精神のある方。現在働いていないが、働く意欲のある方と考え、社協さん・シルバー人材センターさんに取材にいきました。

【1】 組織間の連携・情報共有の壁

今年3月に新宿区社会福祉協議会（社協）を訪問。

数百名のボランティア登録者の中に介護資格者もいるとのことでしたが、「NPOとは別組織なので周知は難しい」とのことでした。

【2】 制度の分断

シルバー人材センターでは約1,700人が登録し、介護資格取得支援制度もあると確認。

しかし、実際の活用については「就職斡旋はハローワークへ」と案内され、地域内で人材を活かす仕組みにはつながりにくさが残っていました。

ほっとステーション

この活動の目的は

**先輩ヘルパーたちが踏ん張れるうちに、ここ新宿から、新しく、そして、ぬくもりのある地域
互助、結果、コミュニティ復興のためのネットワークづくりを行おう。
そのために、現役ヘルパーのひとりとして、このプロジェクトを発足することにしたのです。**

現状



接点の不在：登録しても「つながれない」

登録されている人材の中には、介護への関心やボランティア意欲を持つ方も多くいます。

しかし、きっかけや居場所、情報の周知が不足しており、現場との接点が生まれていません。



イメージの壁：関わりたいが踏み出せない

「介護は大変そう」「自分にはできない」という印象が先行しがちです。

ポジティブな関与の入り口（楽しさ・役立つ感覚）が見えていないことが、参加の障壁になっています。



作りたい未来

つながる仕組みと場をつくる

- 相談会やサロンを定期的に行き、「話す」「聞く」から始まる関係性を大切に
- 「介護は大変、でも面白い」—— そんなリアルな声を伝え、関与のハードルを下げる
- 地域内で関心と力が循環する構造を育てていく
- 登録者・現場・支援機関のあいだに、緩やかに関係を結ぶ導線を設計
- 外部との情報共有や連携を図り横のつながりを拡張していく

ほっとステーション

どんな活動をしたいか

制度のすき間を、地域の知恵と人のつながりで補っていける仕組みづくりを目指します。

そのために、まずは声を聴ける場・連携できる関係・見えるしくみが必要です。
私たちは、この3つの柱で地域共助の一步を形にしていきます。

01

相談できる“場”をつくる

定期的な相談会・サロンの開催

- ・介護の悩みを共有し想いを届ける場所
- ・話せる・つながる・気づける機会を提供

02

地域の力をつなぐ

NPO・行政・大学・事業者間連携

- ・セクターの垣根を超えた協働
- ・多角的なアプローチで、支援の幅を広げる

03

“見える化”としくみ化

来場者登録制度の運用

- ・参加・関心・得意分野などを可視化しデータ化
- ・地域ぐるみで、潜在的介護人材を共有
 - ・活用できる基盤づくり

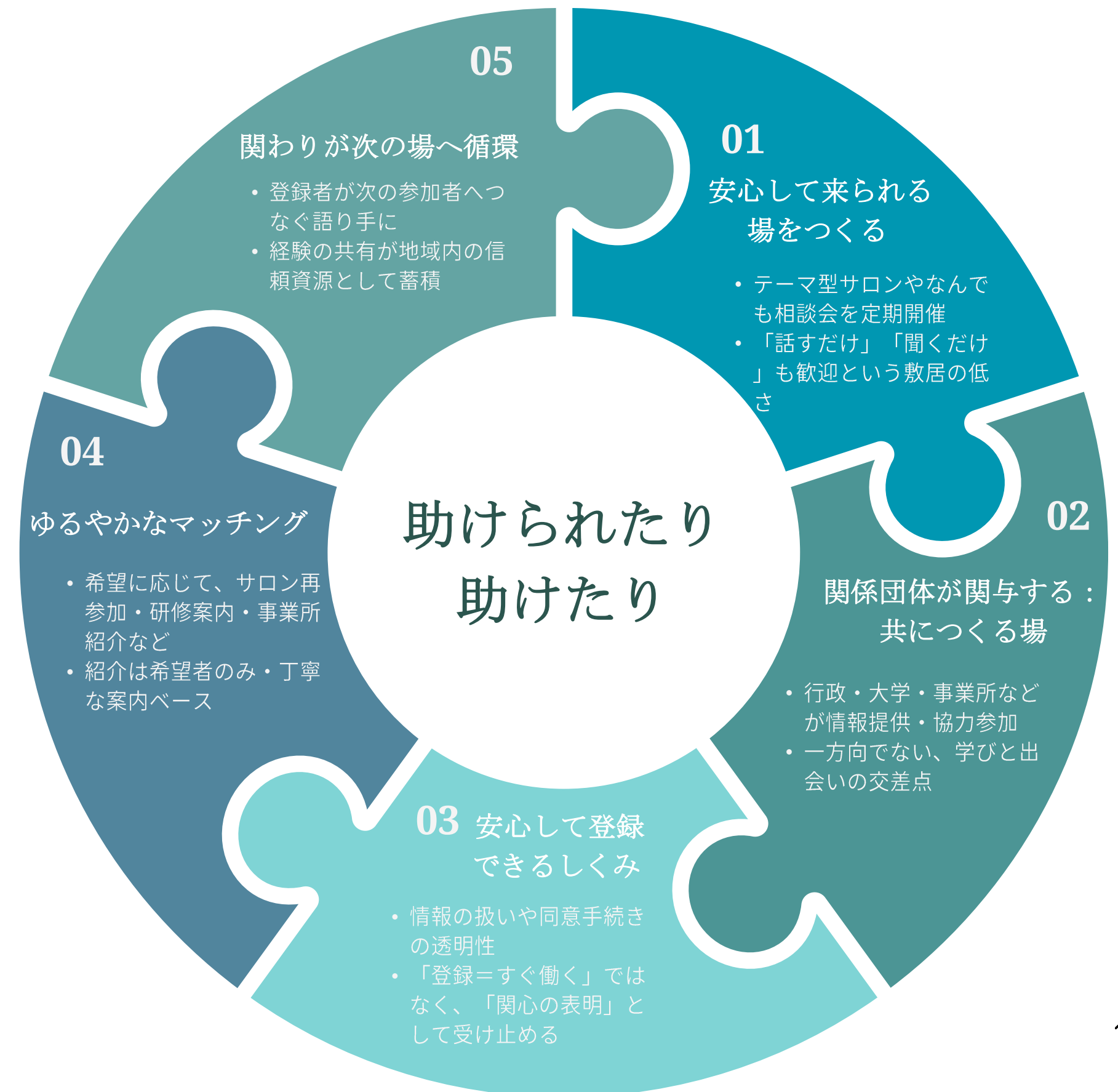
この取組で潜在的介護者をどのように掘り起こしていくのか。

公共でも民間でもなく、社会的な課題の解決のためにNPOは存在すると考えています。

今回の助成申請は、まず、行政と訪問介護の現場の課題の共有化を図り、

『助けられたり・助けたり、住み慣れた町で暮らしていきたい』という、当NPOのミッションで、組織を超えた賛同者の人的ネットワークを構築していこうと考えています。

その他、家族のために資格を取った方、介護業界で働いてみたが、自分の考えていた介護ができなかった方などにもお声がけしていきたいです。



1. 相談会やサロンを開催（+出張）して、プロジェクトを浸透させていく

相談・情報収集・交流・啓発の場を提供

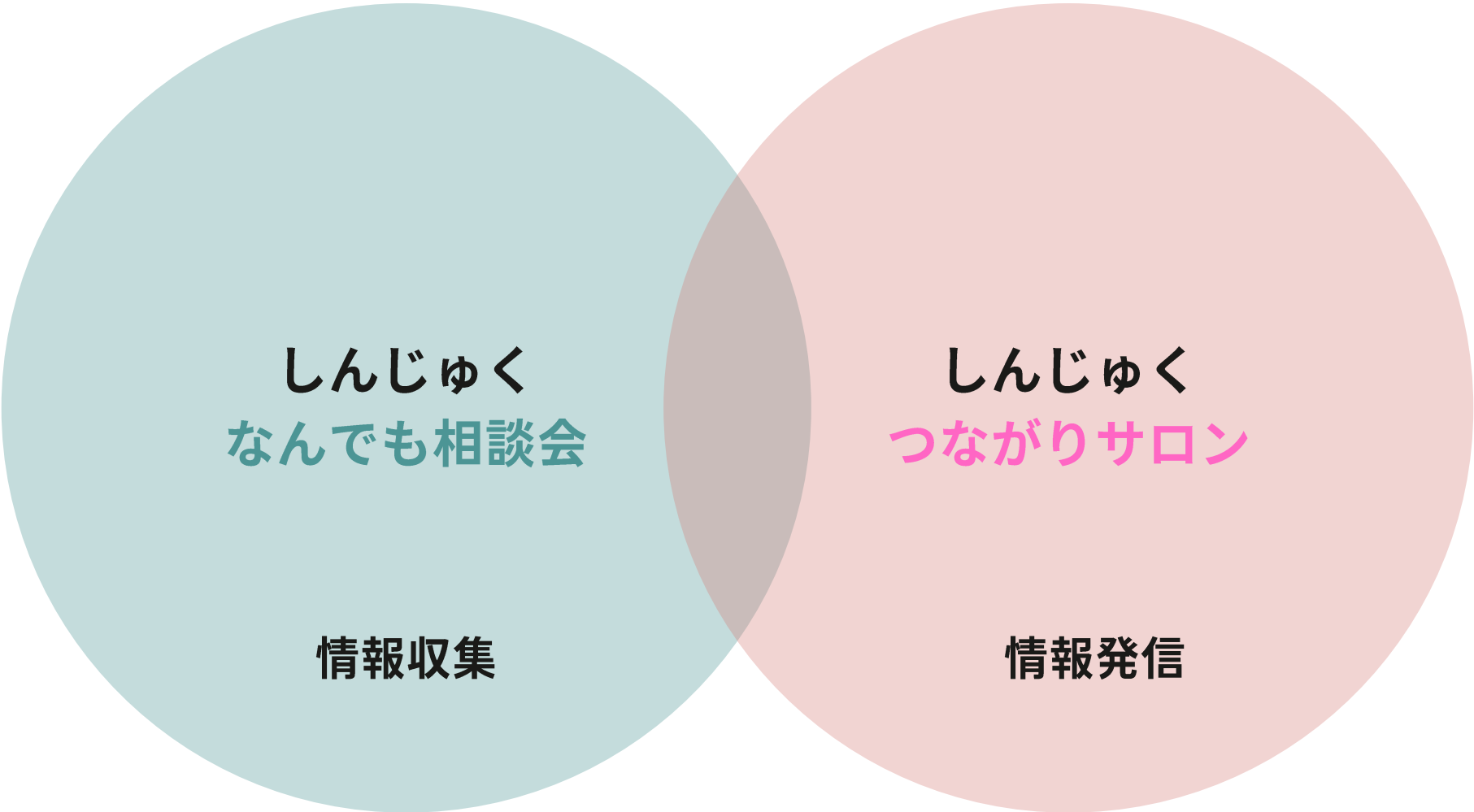
定期的な相談会やサロンを継続開催し、先輩介護者の声・学生発信・就職支援・ボランティア入口など多様な動機づけを提供。
サロンではミニセミナー、なんでも相談などを行い、その様子はアーカイブ動画として記録・発信。

相談会

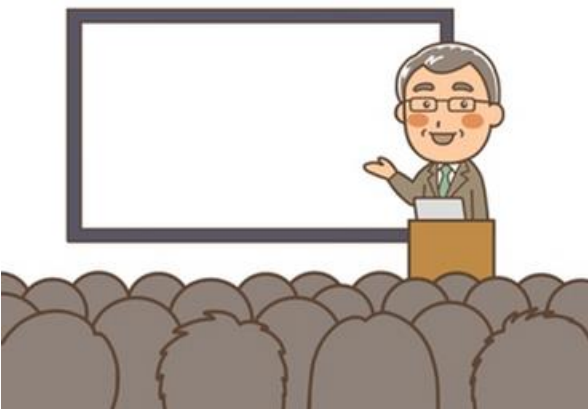


介護者の悩みを共有したり。
高齢者の孤立を防いだり。
介護職希望者が情報を得たり。

誰もが参加でき、なんでも相談
できる集いの場を提供します。



サロン



潜在的介護者向け情報提供、先
輩介護者の話、ボランティア体
験案内、就職相談など、多様な
テーマのサロンを開催し、介護
の魅力を紹介します。

※日程は変更される可能性があります。

どなたも参加できる介護に関する相談会

01

スケジュール(予定)

- 第1回：2025年8月12日（火） 14:00～15:30
- 第2回：2025年9月9日（火） 14:00～15:30
- 第3回：2025年10月7日（火） 14:00～15:30

※第4回以降の開催につきましても、毎月2週目の火曜日開催を原則としますが、場合によっては変更される可能性があります。

02

開催場所

- 対応職員：ケアマネ・ヘルパーなどの現職スタッフがボランティアとして参加
- 開催場所：ほっとステーション新宿事務所
 - オンライン開催も想定しています

03

参加対象

- 参加無料・予約不要・聞くだけでもOK
 - 介護をしている方・これから必要になりそうな方
 - ヘルパーや地域見守り協力員の方
 - 介護の仕事に興味がある方・目指している方
 - 地域で介護についてちょっと聞いてみたい方

なんでも相談会



介護にまつわる なんでも相談会
聞きたい・話したい・知りたい人、あつまれ！
介護を“する人”も、“される人”も、みんな主役の相談会

介護のこと、 気軽に話してみませんか？



この相談会は、

- ・ 介護をしている方・これから必要になりそうな方
- ・ 介護の仕事に興味がある方・目指している方
- ・ 地域で介護についてちょっと聞いてみたい方

どなたでもご参加いただける“開かれた相談の場”です。

開催日時	主催・会場
2025年8月12日(火) 14:00～15:30	ほっとステーション新宿
2025年9月9日(火) 14:00～15:30	東京都新宿区百人町3丁目28番5号 グランドヒルズA101号
2025年10月7日(火) 14:00～15:30	tel. 03-6908-9007

『ヘルパーは楽しくないこともあるけど、がぜん面白い』を広めていくテーマ型サロン

01

スケジュール&場所(予定)

- 第1回：2025年7月15日（火）14:00～16:00
- 場所：新宿NPO協同推進センター
- 参加対象：誰でも参加可（主に地域住民の方、協力団体の方）

02

内容

- ミニセミナー
 - 向山久美さん『ヘルパーと高齢者のちょっと素敵な時間』の著者
- パネルディスカッション（NPO）
 - 新宿区での介護コミュニティ活性化
- ※企画協力：市民協
- 今年度の計画発表
- アンケート調査及び名簿登録
 - 質問・ご意見をいただく
 - 資格の有無、資格の取り方、居住地域、自転車乗れるか等々

第1回 ヘルパーの楽しさについて

聞いて話してつながって
その先へ



しんじゅく
つながりサロン

日時：2025年7月15日(火) 14:00～16:00

参加費無料

本セミナーでは、『ヘルパーと高齢者のちょっと素敵な時間』の著者である向山久美さんより、ヘルパーの楽しさについて語っていただきます。現在は、杉並のNPOの理事を務めており、ヘルパーを続けています。





会場：新宿区NPO協同推進センター

東京都新宿区高田馬場4丁目36-12

www.x x x x

情報は
こちらから



ポスター(作成中)

出会いからつながりへ、地域の力を循環させるしくみをご一緒に育てていきたい。

	各機関に協力を求めていくこと	ほっとステーションがやること
行政との連携	・ 広報協力（区報・ポスター設置・回覧板・SNS等） ・ 地域ネットワークとの橋渡し（社協など）	・ 協働を前提とした実施計画と成果共有 ・ 広報物・申請手続き等の準備・提案
大学との連携	・ 学生ボランティア・インターンの受け入れ促進 ・ 授業・ゼミとの連携（介護・地域福祉等）	・ 実習やフィールドワークの企画設計 ・ 若者向けサロンテーマの共催・講師調整
介護事業者との連携	・ 包括・ケアマネっと・サ責ネット ・ 現場体験の受け入れ・協力 ・ 人材マッチング先としての参画 ・ 現場のリアルな声の提供（サロン登壇等）	・ 登録制度を通じた希望者のマッチング支援 ・ 登壇・協力依頼にあたっての事前調整・サポート ・ 双方向のフィードバック体制の構築（声の吸い上げ）

介護人材の好循環システム

「登録」とは、「すぐに働くこと」や「ボランティアを強制されること」ではありません。
地域の中にある介護への関心や意欲を、無理なく、見える形でつなげていくための仕組みです。

◆ 目的

- 潜在的介護人材（関心がある方、資格保有者、元経験者など）を「埋もれさせない」ための第一歩
- 参加者の希望・関心・スキルを記録し、必要に応じてゆるやかにつなぐ共助の窓口をつくる

◆ 登録内容（例）

- お名前（ニックネーム可）・年代・地域（町名まで）
- 関心のあるテーマ（例：認知症ケア、生活援助、話し相手など）
- 所有資格・経験の有無（任意）
- 今後関わってみたい形（イベント参加・ボランティア・研修など）



オンライン・オフラインでの介護者募集名簿（sample）

個人情報の取り扱いに対する対策

- 本事業では、来場者・登録者の個人情報を適切に管理し、ご本人の同意に基づいて活用するため、現在、連携する法律事務所の監修のもとでプライバシーポリシーを策定する予定です（右記：ドラフト）
- 情報の提供・共有はすべて本人の意思に基づき、安心して登録・参加いただける仕組みを整備してまいります。

エントリーシートに関するプライバシーポリシー（個人情報の取扱いについて）
本事業では、登録いただく皆さまの個人情報を大切に扱い、以下の方針に基づいて適正に管理・運用いたします。

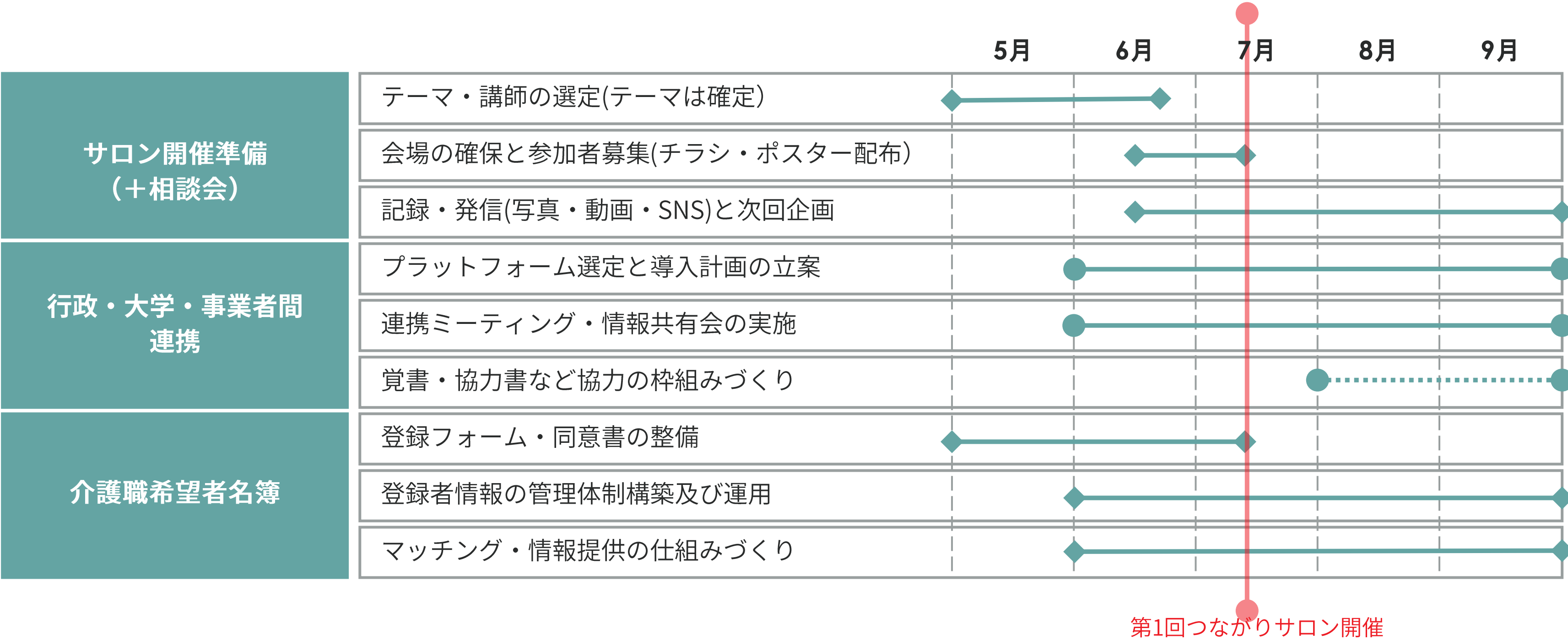
- 1. 収集する情報と利用目的
エントリーシートを通じて、以下の情報を任意でご登録いただきます。
＜主な登録項目＞
- ・お名前
 - ・年代・ご住所（町名程度まで）
 - ・ご連絡先（電話番号・メールアドレス等）
 - ・関心のある活動や分野（例：サロン参加、ボランティア、介護職関心など）
 - ・保有資格・経験（任意）
 - ・その他の備考やご希望
- ＜利用目的＞
- ・参加者との連絡・お知らせのご送付
 - ・活動案内・マッチングのご提案
 - ・地域資源の傾向分析（個人が特定されない範囲）
 - ・本事業の運営改善・広報資料作成の参考
- 2. 第三者提供について
ご本人の事前同意がある場合に限り、以下の目的で情報の一部を連携する場合があります。
- ・関心のある活動先・事業所等へのご紹介
 - ・地域内ネットワークの連携・協働（※個人が特定されない形での傾向共有を含む）
- それ以外の目的で、登録情報を第三者に提供・公開することは一切ありません。
- 3. 情報の管理・保管について
- ・登録情報は、事務局（当NPO）が責任を持って安全に管理します。
 - ・外部への漏洩・不正アクセス等を防ぐため、必要かつ合理的な安全管理措置を講じます。
 - ・一定期間をもって、利用目的が終了した情報は適切に廃棄・削除します。
- 4. ご本人からの問い合わせ・変更・削除について
- ・ご自身の登録内容についての確認・修正・削除をご希望の場合は、事務局までご連絡ください。
 - ・ご希望に応じて、速やかに対応いたします。

■ 5. お問い合わせ先
特定非営利活動法人ほっとステーション
本事業事務局
✉ xxx@example.org
☎ 03-xxxx-xxxx
（受付時間：平日 10:00～17:00）

☒ 同意チェック欄（紙面・デジタル共用）
☐ 上記の内容を読み、個人情報の取扱いに同意します。

署名または氏名：_____ 日付：____年____月____日

実施計画（直近のToDoとスケジュール）



企画協力

舟越八重子（戸山ハイツ 東地区自治会会長）
石原裕子一（般社団法人 スパファンゴヘルシーエイジング協会）
屋木純一（コピーライター）

認定NPO法人 市民福祉団体全国協議会

取材先

認定NPO法人 市民シンクタンクひと・まち社
若松町高齢者総合相談センター
大久保高齢者総合相談センター
社会福祉協議会
シルバー人材センター

ご清聴ありがとうございました！

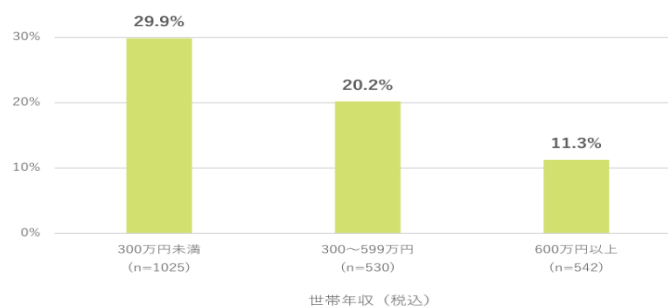
助 成 事業計画書

団体名	NPO法人 みんなのことば
事業名	体験型クラシック音楽プログラム 【親子で楽しむクラシック みんなのコンサート in 新宿】の開催
1 事業目的・事業概要	<事業目的> 感性の80%が育つ0～6歳の未就学児にスポットを当て、プロの音楽家による“豊かな感性と表現”を育てる参加型クラシックプログラムの実施により、区が推進する『新宿区教育ビジョン』『新宿区子ども・子育て支援計画（第3期）』『多文化共生のまち』の推進に貢献する。 この計画を継続し、新宿区を“すべての子どもたちが、国籍や家庭環境にかかわらず、小学校に入る前に、ワクワクする本物の体験が当たり前”のコミュニティにする。 ◎聴く・歌う・みんなで演奏する体験を通して、子どもたちの感性を育む ◎子どもが心で感じる姿をご家族にもご覧いただき、家族みんなを笑顔にする ◎文化芸術分野における子どもの体験格差をなくしていく ◎音楽体験を媒介に、多文化共生コミュニティの活性化に貢献する ◎園の先生方や関係者のみなさまに、本物の体験を知っていただく ◎新宿区、NPO 団体、企業 CSR ご担当者の方とみなさまと地域一体となり、子どもたちの心を育てる“本物の体験”の機会をつくることで、子ども自身のみならず、関わる人々による地域への愛着を育てる <事業概要> 8月と11月に、新宿区NPO協働推進センターで親子コンサートを開催する。 対象は、新宿区に住む未就学児親子、および新宿区にお勤めのご家庭の子どもとご家族とする。NPO協働推進センターのある高田馬場エリアを中心としたご家族の参加が期待される。 演奏者は各方面で活躍するプロの音楽家で、司会を担当する歌手と、フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのカルテット 計5名で編成する。 アイネ・クライネ・ナハトムジークなどクラシックの名曲を 子どもの集中力を考慮した45分間のプログラムにまとめ、“静かに聴く”のではなく、“聴く・歌う・みんなで演奏する”参加型のコンサートをお届けする。 親子ペア1,000円の有償公演とするが、区内企業・事業者のCSR担当やNPO・教育関係者などを招待し、今後の継続拡大に向けたネットワーク構築につなげる。 ②コンサートの準備期間 区内幼稚園、保育園、こども園（全114園）のうち、NPO協働推進センター近隣の園を中心とした施設へのご案内、および近隣のご家庭へのチラシ配布と、ホームページ・Instagramの活用により、コンサートの告知と集客をすすめる。 告知活動を通じて、区内上場188社を中心とする企業・団体のCSR担当者や、幼稚園の園長先生などの教育関係者、区内NPO関係者との接点拡大を図る。 ③コンサート終了後のフォロー 参加者アンケートや来場者とのコンタクトや、準備段階で確立した関係者とのリレーションを活かして、『新宿区子ども・子育て支援計画（第3期）』に沿った来年度の育成活動計画をたてる。

② 地域課題・社会的課題

- ① 新宿区における虐待相談の受付件数は年々増加しており、令和5年度の新規受付件数は、年間1,500件弱と平成26年度からの10年間で約8倍となっている（出典：新宿区子ども子育て支援計画）。
- 虐待を未然に防止するためには、子どもの感性を育てていく活動と並行して、親が子どもの表現する感動を共有し、感動することで成長していく姿に触れ、子どもへの愛情を再確認する機会が必要である。
- ② 新宿区は外国人人口が都内で一番高く（130カ国、41,851人（区民の12.2%））、多様性を認めあう多文化共生社会の実現を目指している。
- 外国人住民に対するアンケートで、多文化共生のまちづくり推進のために区が進めるべき最重点テーマは、「日本人との交流会やイベント」（46.5%）との回答であった。
- 新宿区は、外国人と日本人のコミュニティをつなぐ交流機会が最も重要な地域である。（出典：令和5年度 新宿区多文化共生実態調査）
- ③ 感性は6歳までにその80%以上が形成される。豊かな感性を育むためには、未就学児の心を動かす質の高い本物の体験が大切である。
- しかしながら、多くのライブイベントは未就学児の入場を制限しており、入場制限のないイベントでも静かにできない子どもをコンサートホールに連れていくことは、保護者にも大きな心理的負担となる。
- また、文化庁の『学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業』予算55.8億円の事業対象は小学校以上で、未就学児は国家予算による支援になっていない。
- ④ 家庭の経済状況や環境によって、子どもの体験格差が生じている。公益財団法人チャンス・フォー・チルドレン発行『子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023』によると、年収300万未満の家庭では30%、年収600万以上の家庭でも1割の子どもは、学校以外の体験がない。

学校外の体験がない子どもの割合（直近1年間）



（出典：チャンス・フォー・チルドレン 子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023）

更に文化芸術活動にフォーカスすると、年収300万未満の家庭で82%、年収600万以上の家庭でも68%の子どもに体験の機会がない状況にある。

各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	音楽	アート・造形・工作	演劇・ミュージカル	外国文化（語学・英会話を除く）	習字・書道	将棋・囲碁	茶道・華道	料理	科学・プログラミング	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	7.5%	1.2%	0.5%	0.5%	6.8%	0.4%	0.4%	0.8%	1.2%	1.2%	82.4%
300～599万円 (n=530)	13.0%	1.1%	0.0%	0.2%	9.4%	0.2%	0.2%	0.6%	1.7%	0.8%	76.2%
600万円以上 (n=542)	17.5%	3.0%	0.4%	0.9%	10.1%	0.9%	0.7%	0.9%	4.2%	0.7%	68.6%

（出典：チャンス・フォー・チルドレン 子どもの「体験格差」実態調査最終報告書2023）

本報告書では、低所得家庭の保護者自身が学童期に学校以外の体験が少なく、幼少期の体験が感性を育み、その後の学歴や社会的地位への影響することを示唆している。

さらに外国人比率の高い新宿区の場合には、保護者の文化的バックボーンの多様性を考慮する必要があり、保護者の経済的・経験的・文化的要因による選択が、子どもの感性の育成に大きな影響を及ぼすことを考慮する必要がある。

2 課題解決のための取組	「楽器を手にする子供は、武器を手にししない」 これは、コロンビアのウリベ大統領（当時）が国の治安を改善するための政策に掲げたスローガンです。 次代を担う子どもたちの心と感性を育てる本物の体験は、やわらかで優しい多文化共生社会の実現に貢献できると考えます。 ① 新宿区では、子どもの虐待を未然に防止することを目的に、子ども総合センターと4か所の子ども家庭支援センターを設置し、保護者が安定した精神状態で育児に臨める支援施策を展開している。 当団体は更に音楽の力で保護者のストレスを和らげ、保護者と子どもが感動を共有することで、虐待の抑止に貢献している。 これを裏付けるとある都内保育園でのエピソードをご紹介します。 夕方の公演依頼を受け、子どもたちを前に演奏していると、保護者がお迎えにやってくる。園長先生が「一緒に聴いて行って」と仕事で疲れた保護者を会場に誘い込むと、モーツァルトの旋律に保護者の表情が和み、その音楽に合わせて踊っている子どもの笑顔に和み、いつしか子どもと一緒に手拍子を始める。 その姿を見た園長先生の「これが虐待の抑止力になるのです」との言葉は、この問題への対応の難しさと、心を動かす本物の体験の可能性を物語っている。 ② 音楽を通して、国籍の違いによる言葉の壁を越えた多文化共生コミュニケーション基盤の醸成に寄与する。 床にマットを敷いたフラットなスペースを用意し、アーティストにできる限り近く、同じ視線の高さで、演奏を体験できる工夫をする。 アーティストは、ただ演奏を静かに聞かせるのではなく、子どもたちが笑ったり、歌ったり、踊ったり、五感を使って感じたことを周りの人と共有しようとする反応を引き出す。 このような子どもの全身を使った感情の表現が、初対面の子ども同士・大人同士の柔らかいコミュニケーションを引き出す。 また指揮者体験や楽器体験、アーティストとの交流の場を通して、心の垣根を超えた参加者同士の一体感を生み出す。 心を動かす体験を五感で表現する子どもたちと、その空気を共有したおとなたちの一体感が、言葉の壁や初対面の緊張を克服し、多文化共生社会のコミュニケーションを活性化する。 ③ 今回の助成により、芸術体験予算が確保できない幼稚園、保育園、子ども園、の子どもたち、家庭の経済的・環境的要因で文化芸術に触れる機会に恵まれなかった子どもたちに本物の体験を届け、区内の子どもたちの文化芸術活動の体験格差の是正に貢献する。 ④ 保護者・教育関係者・事業者各位に、コンサートと参加する子どもたちの反応を体験いただき、その効果と可能性を訴求し、今後の協力支援体制の基盤をつくる。 今回は有償公演となるが、事業者や保護者からの賛同と資金協力を得て、将来的には無償で、新宿区のすべての子どもたちにコンサートを届けていきたい。
1 先駆性・専門性	デジタルエンタテインメントが普及した今日、音楽や映像はスマホやAV機器を通し、受け止める側の反応に関係なく一方的に発信されるバーチャル体験として大量に発信・消費されている。 しかし、この手軽なバーチャル体験は、アーティストと聴衆が同じ空間と時間を共にする一体感、肌で感じる空気の振動、アーティストの息遣いやアイコンタクトが生む本物の体験とは一線を画す。  私たちは、司会を担当する歌手と、フルート・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの四重奏で、子どもの集中力を考慮した45分間のコンサートを届けている。 アーティストと参加する子どもたちの距離をできるだけ近くセッティングすることで、肌で感じるヴァイオリンの弦の響き、チェロのエンドピンを通して床から伝わるチェロ

の振動、演奏者同士の息遣いなど、本物の体験を届けることにこだわっている。



ただ演奏を聴かせるだけでは子どもの集中力は維持できない。発達に合わせたプログラムの構成はもちろんのこと、相手が純粋な子どもだからこそ、高い演奏のクオリティを維持しつつ、司会の巧みな話術と、子ども一人ひとりとのアイコンタクトや全身を使ったアーティストのパフォーマンスにより、終始子どもの注意を引きつけることができる。

クラシックコンサートでは当たり前となっている“静かに聴きましょう”というルールはなく、泣いたり、笑ったり、いっしょに歌ったり、子どもが五感で感じて表現する反応を引き出し、そのすべてを受け入れる。



私たちは、感性の80%が育つ0～6歳までの子どもに、ワクワクする本物の体験を届けることを目標に2009年にNPO法人を立ち上げ、これまで1300ヶ所以上、12万人以上の子どもたちにコンサートを届け、先生方や保護者の皆様から満足度98.9%の評価を得ている。

以下に、コンサートをお届けした園長先生と保護者からいただいたコメントを紹介する。

<白百合保育園（東京都江戸川区）園長 渡部裕人先生>

- ・これは子どもたちだけでなく職員も学びや経験になると思って、続けていきたいと感じました。

<ゆたか幼稚園（埼玉県三郷市）親子コンサート 参加ご家族>

- ・子供たちが歌や手拍子で参加したり、演奏者の方の問いかけに元気よく答えたりする姿は、とても微笑ましく園全体が一つになったような一体感を感じました。
- ・子供達のいきいきとした表情や、楽しい、おもしろいという感情がたくさん伝わってきたので、私もとても嬉しかったです。
- ・テレビなどでは体験できない迫力ある演奏、歌声でさすがプロだなと感じました。やはり体感、体験、経験することはとても大事だなと改めて思いました。
- ・大好きなお友達と一緒に全身で音楽を楽しんでいる様子が見られて感激しました。帰宅してからも「ブラボー♪だったね!」とたくさん親子で会話もできて嬉しかったです。
- ・母である私も、日々慌ただしく生活している中で、日常のすべてを忘れ（笑）、ひたすら癒された時間になりました
- ・日々色々な事に追われ過ぎていると音楽を聞くことすらないのですが、クラシックなんてなおさらなのですが、初めの音から胸にひびいてなぜか涙があふれそうになりました。すごく感動しました



演奏者はいずれも音楽大学を卒業して各方面で活躍するプロのアーティストで、当法人のオーディションと独自研修を経て、演奏技術と適性を確認している。
子どもに本物の体験を届けるプロとして、反応を受け止めながら表情や全身を使ったパフォーマンスで、最後まで子どもの集中力を切らさず、心を動かすスキルを身に着けた専門家である。



I イベント（会議）の開催予定等

1. イベント（会議）名：

親子で楽しむクラシック みんなのコンサート in 新宿

2. 活動内容：

- ・歌手とカルテットによる親子コンサートの実施
- ・指揮者体験、楽器体験、アーティストとの交流
- ・告知案内を通して、区民、教育関係者、区内事業者との関わりを持ち、実施後のフォローによりその効果を共有し、ご家族の経済的負担なく、継続的に開催できる基盤をつくる

3. 実施期間、回数：

- ・夏公演と冬公演の2回開催
- ・夏は8月23日(土)、冬については11月か2月で調整

4. 実施場所：NPO協働推進センター 多目的室

5. 周知（募集）方法、期間：

- ・区内幼稚園(23 園)、保育園(66 園)、こども園(18 園)への案内チラシ郵送、個別訪問フォロー
- ・NPO協働推進センター近隣家庭へのポスティング
- ・区内上場企業188社への郵送、訪問案内
- ・団体ホームページ、インスタによる案内
- ・区内施設、掲示板による案内

★上記施策を開催2か月前から実施

⑤ 具体的な活動内容

(イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)

	6. 対象者・定員数： ★集客定員150名 ・区内在住の親子、区内在勤の親子：150名 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（2）名 講師等（5）名 アルバイト（6）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ・会場のNPO協働推進センターとの綿密な事前打ち合わせ ・受付でのアナウンスの徹底 ・来場者動線の明示と安全な誘導の徹底 ・子どもの動きを想定した安全対策の徹底 ・授乳室やおむつ替えスペースの確保
--	--

⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果
	・音楽は世界共通のことば。本物の体験は、区が目指す国籍や慣習にとらわれない多文化共生社会の実現に寄与する。 ・区内の子どもたちの文化芸術体験の格差が是正され、感性豊かな次代の担い手の育成に貢献する。 ・保護者、教育関係者、事業者の知見を広げ、子どもの感性を育てるための区内関係者の協力体制を確立する。
	イ 現状や課題に対する成果・効果
	・国家予算による支援が届かない未就学児に文化芸術体験の機会を設けることで、子どもの感性を育てる。 ・子どもと保護者が体験を共有することで、家族共通の話題や思い出が生まれ、家庭の雰囲気をやさしく健やかにすることで、家庭内暴力を抑止する。
⑦ 今後の展望	すべての子どもたちに本物の体験を！ “新宿区の子どもたちは、国籍や環境にかかわらず、小学校に入る前に本物の体験を通して豊かな感性を備えている“という状況を当たり前のものとし、心豊かでやさしい多文化共生社会の担い手に育っていく環境をつくっていききたい。

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 （申請中のものを含む）	☐ 有 ☒ 無
	有 の 場 合 は 、 助 成 名 称 （ 団 体 ） 及 び 助 成 額 助 成 名 （ 団 体 名 ） ： 助 成 額 ： 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

費 目		予 算 額		内 訳
事業費 支出区分	①使用料及び賃借料	11,600	円	演奏会場 NPO協働推進センター 5,800円×2回=11,600円 (多目的室および控室として102会議)
	②消耗品及び印刷費	11,803	円	コンサートちらし印刷: 5,000部 = 10,978円 アンケート印刷: 5.5円×75組×2回 = 825円
	③委託費	34,274	円	コンサートちらしデザイン: 11,137円×2回 = 22,274円 チケット販売サイト手数料: 75,000円×8%×2回 = 12,000円
	④講師謝礼	220,000	円	アーティスト謝金: 20,000円×5人×2回 = 200,000円 (手取り額) 予算額には源泉税・消費税を含む 交通費2000円×5名×2回 = 20,000円
	⑤その他謝礼	0	円	
	⑥交通費	32,000	円	当日スタッフ交通費: 2,000×8名×2回 = 32,000
	⑦保険料	8,700	円	150人×29円×2回 = 8,700円
	⑧その他諸経費	59,108	円	運搬費: 9,647円×4回 = 38,588円 郵送費: 施設向け郵送: 114園×180円 = 20,520円
	⑨感染症等対策経費	9,893	円	※上限額2万円以内 (20,000)
				消毒スプレー: 2,290円×2本×2回 = 9,160円 税込9,893円
	⑩人件費	129,126	円	※下記「事業費」の25%以内 (129,126)
				当日運営スタッフ 1,200円×8名×5h×2回=96,000円 前日準備作業 1,200円×4名×2h×2回=19,200円 制作・広報関連 1,200円×2名×10h×2回 = 48,000円
	事業費 (①から⑩の合計)	516,504	円	
	⑪ファンドレイジングに関する経費	25,826	円	※事業費の5%以内 (25,826)
				企業向けDM印刷&郵送: 156.5円×188通 = 29,422 (税別)
	⑫助成対象経費 (事業費+⑪)	542,330	円	
	⑬助成対象外経費		円	
	事業総額	542,330	円	

収入区分	内 容	予 算 額		積 算 根 拠 (内 訳)
	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	150,000	円	親子ペア1,000円×75組×2回＝150,000円
	㊧ 寄附金		円	
	㊨ 補助金等収入		円	
	㊩ 協働推進基金助成金	364,000	円	「㊠～㊨、㊪～㊬の合計」の2/3と「㊨」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊰ 団体負担金	28,330	円	
	収入総額	542,330	円	

黄色の箇所は自動計算になっています

ピンク色の箇所は金額の確認が必要な欄です

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじん みんなのことば 特定非営利活動法人 みんなのことば	
所 在 地 (主たる事務所)		
代 表 者 氏 名	(ふりがな) とみた ゆうこ 富田 悠子	
	連絡者氏名 住所 電話 FAX e-mail	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 平成21年 3月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 (年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 12人 団体:	入会条件 特に条件を定めていない
主 な 活 動 地 域	東京都 区・市 <u>その他</u> (新宿区を中心に全国)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) ☒ (団体メールニュース 年24回発行) / 無 (ホームページ) ☒ (URL https://minkoto.org/) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	この法人は、広く一般市民を対象として、世界共通のことばである 音楽を、人から人へ伝える生演奏で、普段の生活の中で体験できる 場を創造・提供する。 その活動を通して、年齢・性別・国境などの ボーダーを超えた人々の繋がりがあ、平和な社会づくりへの貢献 を目的とする。 またすべての活動を通して、音楽家の活躍の場の拡大に寄与することを目的とする。	

主 な 活 動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動 ・新宿区内の保育園・幼稚園でのコンサート活動 ・新宿区内での親子コンサート開催
	上記以外の活動 ・未就学児を対象とした参加型クラシックコンサート活動 幼稚園／保育園への訪問コンサート 企業と開催する親子コンサート 他 ・小学校／中学校／高等学校／特別支援学校の児童を対象とする参加型クラシックコンサート活動（文化庁助成）
新宿区との連携実績	・ 部署名 ・ 連携事例 ・ 連携した内容の詳細



NPO

みんなのことば

心で感じる音楽を、こどもたちへ。

特定非営利活動法人みんなのことば
令和7年5月26日
令和7年度新宿区協働推進基金助成金
一般事業助成 二次評価

VISION 子どもにとって、生演奏の体験があたりまえの社会

MISSION 家庭環境・教育環境に関わらず、
すべての子どもに、五感を使い心の動く
音楽体験を届ける。

目次

NPO

みんなのことば

心で感じる音楽を、こどもたちへ。

1. みんなのことばの活動紹介
2. 今回の事業計画
3. ご質問への回答







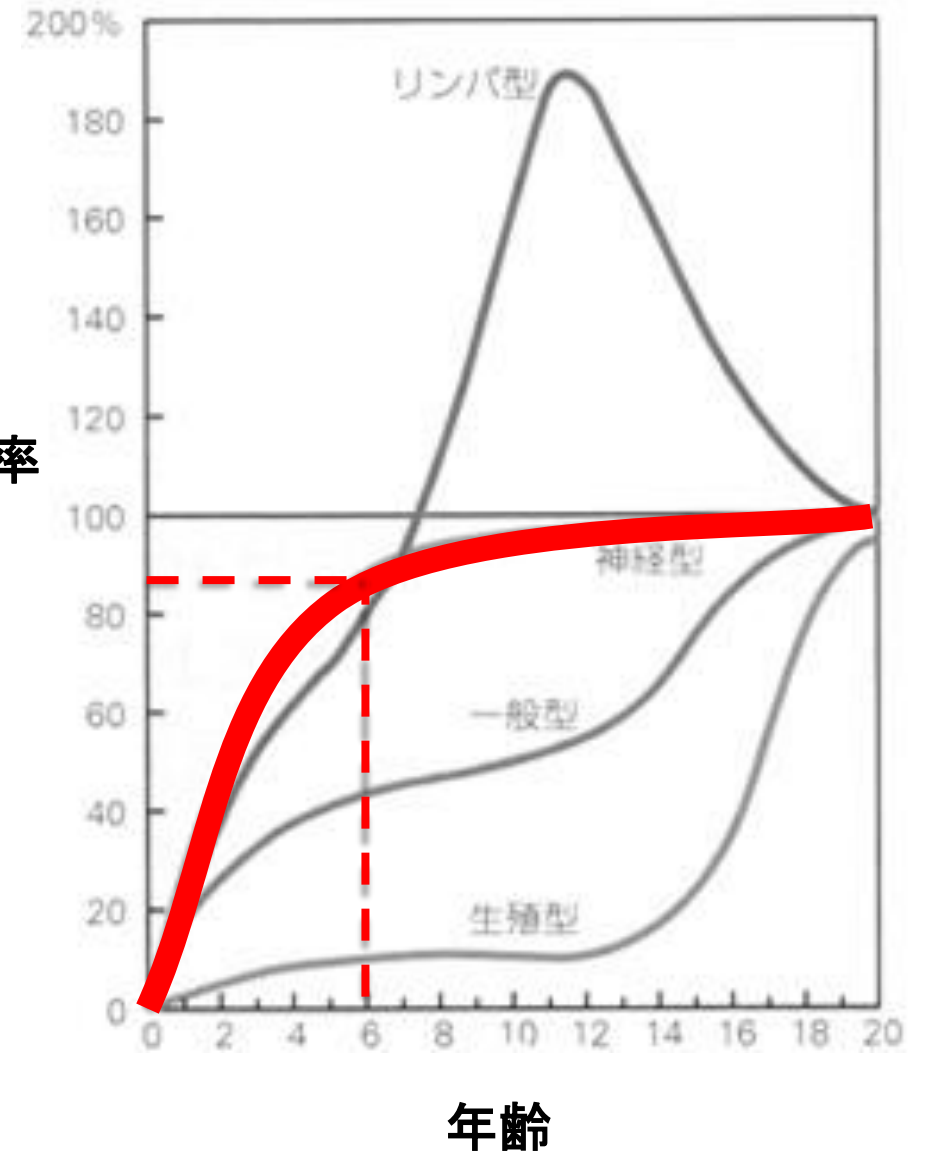


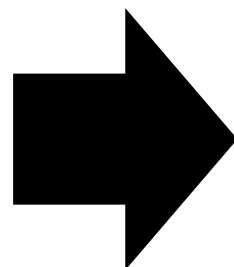
「なんでかわからないけど、涙が出ちゃった」



感性は
6歳までに80%以上
成長する

成長率





高校卒業率 ↑

収入 ↑

子育て率 ↑

生活保護受給率 ↓

犯罪率 ↓

教育の投資対効果が高い



五感を使う



心が動く

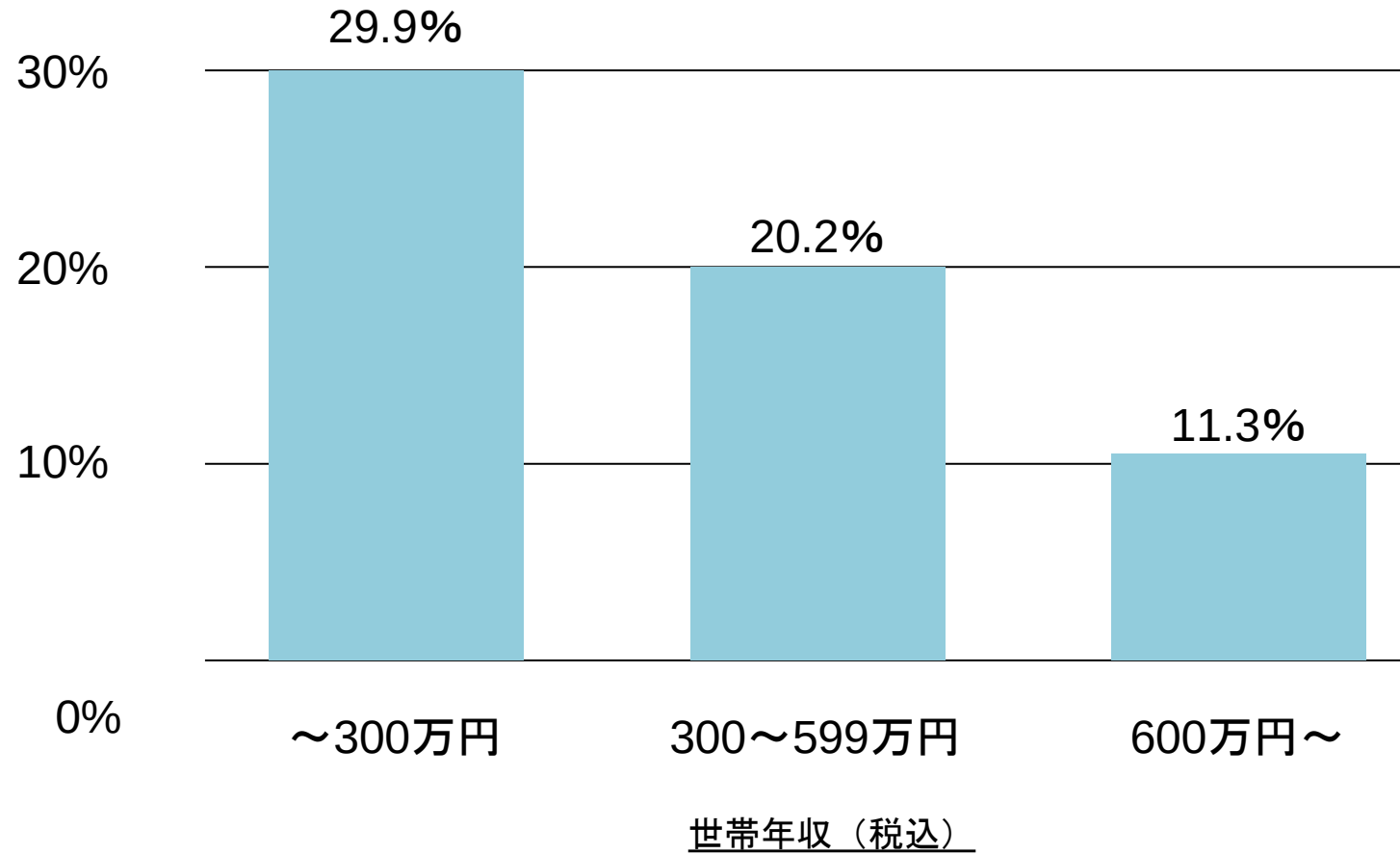


“本物の体験”

体験がない子どもたち



学校外の体験がない子どもの割合



＜公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン：子どもの「体験格差」実態調査 最終報告書（2023）より＞

子どもの体験は、
大人の選択によって決まる。







国家予算は 年間60億円

“**全ての子供**や若者が、**学校や地域において本物の文化芸術に触れ**、
豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育む機会を充実することにより、
次代の文化芸術の担い手や鑑賞者を育むとともに、**心豊かな子供や若者の育成を図る。**”

＜文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な方針－文化芸術資源で未来をつくる－（第4次基本方針）（2015）
第2 文化芸術振興に関する重点施策
重点戦略2：文化芸術を創造し、支える人材の充実及び子供や若者を対象とした文化芸術振興策の充実 より＞

0円

すべての子ども

60億円



6歳以下
未就学児（幼稚園・保育園）



6歳以上
就学児（小学校以上）



オーケストラ、
ミュージカル、
テレビ、スタジオなど
多方面で活躍中です♪

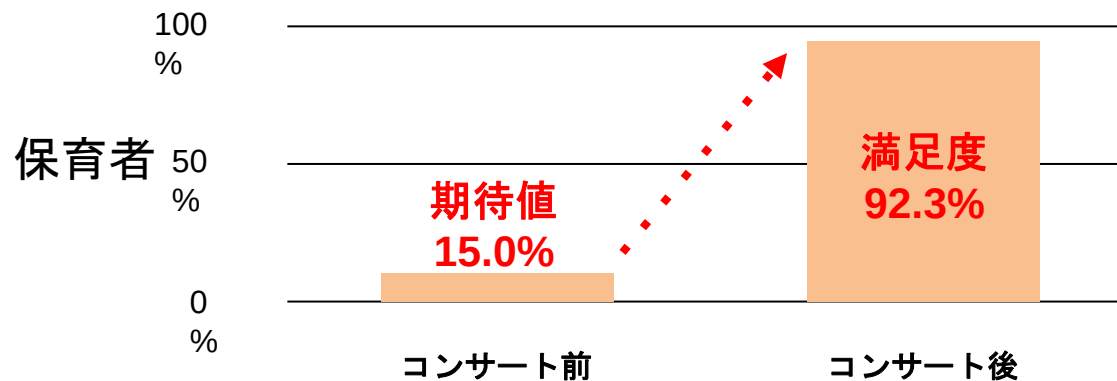
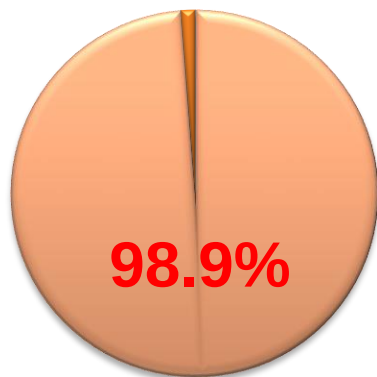
【アーティストの出身大学】

- ・ 東京藝術大学
- ・ 国立音楽大学
- ・ 武蔵野音楽大学
- ・ 東京音楽大学
- ・ 桐朋学園大学
- 他



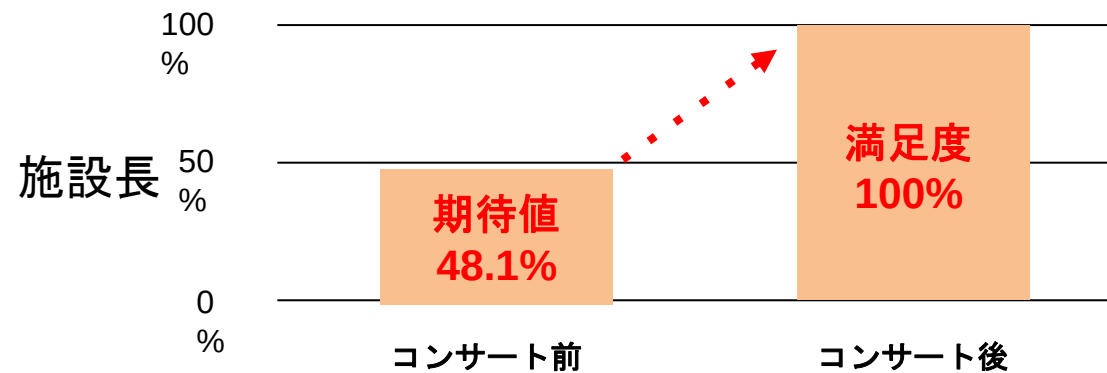
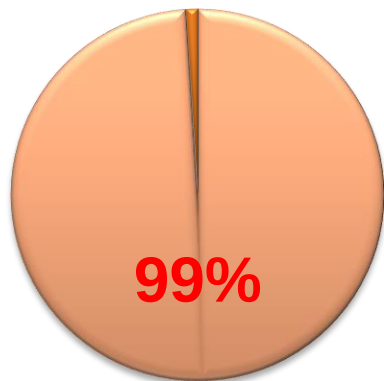
保育者へのアンケート結果

満足度



子どもの
新たな興味や
才能を発見する機会
になった

また園に呼びたい



保育者にとって
新たな気づきや
ヒントになった

調査対象：2018～2019年度に「みんなのコンサート」を体験した幼稚園・保育園の保育者396名。うち施設長27名。

距離が近い
(五感で感じる)

リトミック教室



みんなこと



芸術性が高い
(本格派クラシック)

オーケストラ



距離が遠い
(大規模公演)

うたのおねえさん
キャラクターコンサート等



芸術性が低い
(ポピュラー)

申請する事業



新宿区で地域の親子のための“心を育てる体験の機会”をつくれます

実施概要：年2回の親子コンサートを開催

第1回 令和7年8月23日（土）

第2回 令和7年11月または令和8年2月を予定

※会場予約が3か月前のため現時点では未定

内容：

- ① フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの四重奏と
うた・司会の5名による参加型クラシックコンサート
- ② 楽器の演奏に挑戦！楽器体験会

対象：

新宿区に在住・在勤の親子約75組 150名（1回あたり）

参加費：親子ペア 1,000円

告知：

- ・団体によるプレスリリース
- ・ウェブ、メルマガ、SNS等の団体メディア
- ・近隣の幼稚園・保育園等へのチラシ配架によるご案内



会場：NPO協働推進センター 2F多目的室

他区での実績・実例<文京区>

イベントの後援・告知協力



行政

企業

NPO



本社ビル内のホールを
無償提供



地域の親子が参加できる
親子コンサートを開催

2017年より親子コンサートを定期開催。
これまでに文京区在住の親子が延べ3,700名以上参加する人気イベントに。
(7月に第12回を開催予定)

新宿区で目指す姿

イベントの後援・告知協力



行政

企業

NPO

区内企業

スポンサー
(協賛金)

会場提供

共催 など

- ① 地域の親子が参加できる
親子コンサートを定期開催
※本申請事業



- (将来的に)
② 区内施設での
訪問コンサートを開催

行政・企業・NPOが一体となり、地域の親子が集い子どもの心を育てる機会を創出。

区民が愛着と誇りを持てる新宿に。

ご質問事項について

Q1. この施策を新宿区で実施する意義について

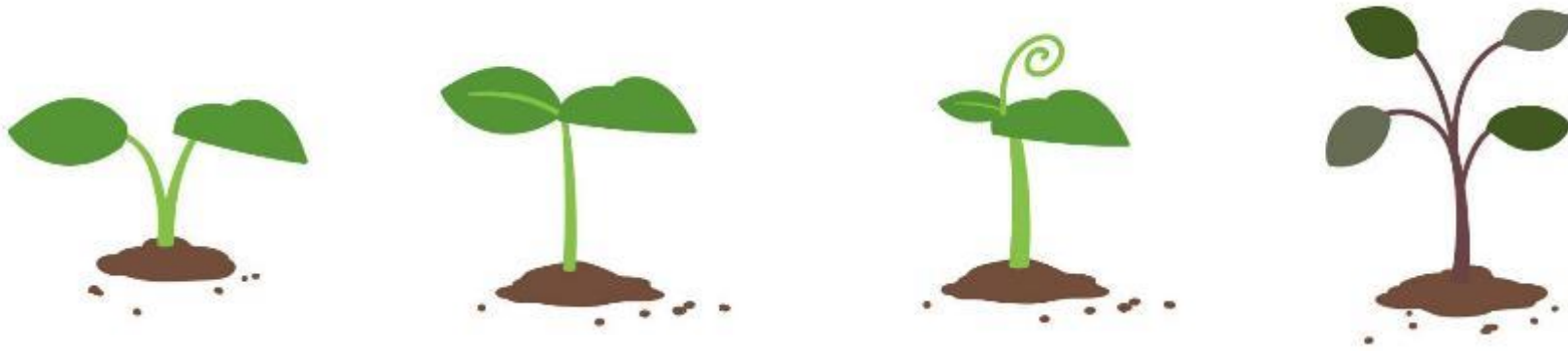
A1. 次ページでご説明します

Q2. 事業計画書に記載のある、村上財団支援による無料コンサートは当申請事業とは別の事業か

A2. 団体の活動例として記載したもので、全く別の事業です

新宿区でみんなのコンサートを開催する意義

新宿区の課題・方針	施策の期待効果	ともに目指す新宿区の姿
● 子どもの文化芸術活動の推進 ＜新宿区・子ども子育て支援事業計画（第三期）＞ 施策１子どもの生きる力と豊かな心を育む ３（２） ● 文化芸術創造のまち新宿の実現 ＜新宿区文化芸術振興基本条例＞ ● 虐待発生予防の取組 ＜新宿区・子ども子育て支援事業計画（第三期）＞ 施策１子どもの生きる力と豊かな心を育む １（２） ● 国籍や文化を超えた住民同士の交流の場が求められている ＜令和５年度 新宿区多文化共生実態調査＞	“本物の音楽体験”を通して 子どもの心と感性を育てる機会 親子で参加 小さい子も安心 大人も楽しめる親子で体験の共有 関係機関との連携による 行政サービスと繋がるきっかけ ことばや文化の違いを超えて “音楽”でつながる空間	幼児期から 文化芸術体験が身近にあり 子どもの心をより豊かに育む ことができる子育て環境 さまざまな親子が 国籍や文化の違いを越えて 交流できる機会のある街



ご清聴ありがとうございました

助 成 事 業 計 画 書

団体名	特定非営利活動法人 臨床検査支援協会
事業名	新宿区民を対象とした健康体験フェアと健康セミナー
① 事業目的・事業概要	<事業目的>当会は、国民の健康と医療の発展に貢献することを目的に様々な活動を実施しております。 この度、新宿区民の皆様を対象とした健康体験フェアと健康セミナーの開催を企画いたしました。これらのイベントを通しまして、区民の皆様の健康への思いに少しでもお役に立てればと考えております。 <事業概要>新宿区民の皆様にまずはご自身の健康状態に興味を持っていただくため、健康体験フェアで手軽な非侵襲性検査機器（血液採取不要の触れるだけで測定できる検査機器）により、現在の状態を把握いただく。更に健康セミナーにより医療機関で受ける臨床検査への理解を深めていただき、必要があれば受診に繋がれば良いと考えます。
② 地域課題・社会的課題	新宿区の国民健康保険者の特定健康診査（40 歳～74 歳）の受診率は令和 2 年度（29.3%）まで減少傾向にありましたが、令和 3 年度（32.0%）、令和 4 年度（34.4%）と 2 年連続で 2 ポイント以上、増加しました。 出典：第 5 期 新宿区健康づくり行動計画（本編 P. 72） なお、東京都全体の令和 5 年度受診率の 43.1%と比べると 8.7%ほど低い。 出典：令和 5 年度 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告（本編 P. 5） 新宿区で健康診断等を毎年受けている割合を、男女年齢 2 階級別でみると、「毎年受けている」は「男性（20～ 64 歳）」が 77.4%と最も高く、次いで「女性（20～64 歳）」が 68.0%、「男性（65 歳以上）」が 64.4%、「女性（65 歳以上）」が 57.1%、と続いている。なお、全体でみると新宿区で「毎年受けている」は 68.7%で、東京都区市町村平均の 72.7%と比べて低い割合であった。 出典：令和 2 年度 都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査報告書（本編 P. 78） また、介護が必要となった主な原因について、性別でみると男性の場合は「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等）」が 15.9%と最も高く、次いで「高齢に衰弱」「認知症」の順となっています。女性の場合は「骨折・転倒」が 17.7%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」「関節の病気（リウマチ・変形性膝関節症等）」の順となっています。

	出典：第5期 新宿区健康づくり行動計画（本編P.14） 新宿区の施策として保健センターで各種検査の事業は実施されていますが、平日のみの事業であり、就労の事情などから平日に保健センターでの当該事業を受けにくい区民の方々も少なからずいる状況が推察されます。 また、国は健康寿命の延伸に取り組んで久しいですが、平均寿命との差はなかなか縮まっておりません。このような現状のなかで健診受診率は仕事をリタイアされた方々や家庭に入られている主婦の方々は低率であり、当会の活動が少しでもご自身の健康維持・管理のための気づきとなればと思います。
③ 課題解決のための取組	健康体験フェアでより多くの区民の皆様に、より多くの検査を一度に体験いただくことや健康セミナーで検査の重要性などをお聴きいただくことで健診受診率の向上に繋がるよう取り組んで参ります。 この助成事業で区民の健康意識を高め、健康増進にも繋げていけるよう取り組んで参ります。 また、課題解決のため継続的に取り組んで参りたいと考えております。
④先駆性・専門性	当会は臨床検査に関わる医師や医療従事者からなる医療専門団体の有志が集まり、2018年に設立。その中心的な役割を果たした渡邊清明前理事長（慶應大学医学部名誉教授）は、臨床検査技能の向上支援、臨床検査の精度向上、医学関連学術講演会の開催、一般市民への臨床検査の普及・啓発など、多岐にわたる事業を展開し、当会を発展させ、2024年4月より宮澤幸久理事長（帝京大学医学部名誉教授）が引継ぎ、更なる飛躍を目指しております。 今後は、臨床検査に関する知識や技術の普及活動を、より広範囲に展開すること。最新の検査技術や情報を積極的に取り入れ、情報提供の内容を充実させること。今後の人材育成の強化として若手人材の育成に力を入れ、将来の臨床検査を担う人材を育成すること。災害時などの緊急事態において、臨床検査の専門性を活かした支援活動を行うこと。一般市民向けの啓蒙活動を強化し、臨床検査の重要性をより深く理解してもらうこと。これらにより、社会貢献の推進として地域社会との連携を強化し、地域住民の健康増進に貢献することに繋げていくことを目指していきます。また、活動を通して国際的な連携を深め、世界の臨床検査の発展に貢献することなどを目指したNPO団体です。

⑤ 具体的な活動 内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)	I イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：(健康体験フェアと健康セミナー) 2. 活動内容：健康体験フェアで骨密度、血管年齢、肌年齢、AGEs 検査（老化の原因物質）、認知症関連などの測定を行い（機器は未定）、現状を把握いただく。健康セミナーで講師が各種臨床検査の有用性などについて 13 時から 30 分程度 1 回ご説明する予定です。 3. 実施期間、回数：1 回／年 4. 実施場所：区内地域センター（令和 6 年度は柏木地域センターと榎町地域センターで実施） 5. 周知（募集）方法：区広報誌「広報新宿」への掲載 開催案内チラシの区施設への配布と区直営掲示板への掲示および HP での周知 期間：令和 7 年 9 月～11 月（予定） 6. 対象者・定員数：50 名 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（7）名 講師等（ ）名 アルバイト（3）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ・緊急時が発生した場合に備え会場と非常口の位置を確認し、緊急避難時の手順と経路をスタッフ等へ周知徹底する。 ・事前に会場施設に訪問し、緊急避難時の対策について施設の方へご相談と指示を仰ぎます。 ・会場の出入り口と各測定機器の隣に手指消毒剤を配置し、ご来場の方にご使用いただく。 ・各測定機器で足首や手指などが触れた箇所を測定の都度にアルコールで清拭する。 ・スタッフ等は手指消毒を励行し、マスクを着用する。

	II イベント（会議）の開催予定等 1. イベント（会議）名：（ ） 2. 活動内容： 3. 実施期間、回数： 4. 実施場所： 5. 周知（募集）方法、期間： 6. 対象者・定員数： 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（ ）名 講師等（ ）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等：
⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果 区民の皆様に参加していただき、まずは健康体験フェアの簡易検査と健康セミナーでご自身の現在の状態を把握していただき、健康に対し興味を持っていただくきっかけとなることが期待できます。この体験が今後の健診受診率向上にも繋がり、結果的に医療費削減にも繋がるものと思います。 イ 現状や課題に対する成果・効果

	保健センターでの各種検査の事業を平日に受けられない区民の皆様にと土曜日や日曜日にも体験いただけることにより、より多くの皆様への検査の機会拡大に貢献できるものと考えております。 また、健康体験フェアで骨密度測定検査などを体験いただくことにより、日頃の健康管理への意識が向上し、要支援・要介護認定者及び給付金の増加が少しでも抑えられる効果に繋がることが期待されます。 令和6年度に開催した同じ地域センターで継続的に開催することにより更なる成果と効果に繋がるものと考えております。
⑦ 今後の展望	来年度以降も当会の事業目的を遂行するため事業活動を展開して参ります。この事業活動の維持と向上のため、会員ならびに賛助企業を拡大し事業の自己予算の確保を推進いたします。 各助成金の活用で事業活動の地域を中野区から隣接の新宿区へ拡大しております。新宿区では令和6年度に実施した助成事業を令和7年度以降に継続的に開催することで、より多くの区民の皆様の健康増進に貢献して参ります。

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（令和 6 年度） 事業名（新宿区民を対象とした健康体験フェアと健康セミナーを 2 回実施）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 （申請中のものを含む）	☐ 有 ☒ 無
	有の場合は、助成名称（団体）及び助成額 助成名（団体名）： 助成額： ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

2回目用

費 目		予 算 額	内 訳
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	240,100 円	柏木地域センター多目的ホール（午前1回、午後2回）2,300円×3回=6,900円 昨年度に実施した地域センターの料金を参考にしました。 測定機器レンタル料 （70,400円+53,900円+55,000円+53,900円）×1日=233,200円
	②消耗品及び印刷費	4,929 円	チラシ印刷（A4片面カラー） 約8.96円×500枚×1.1=4,929円
	③委託費	円	
	④講師謝礼	円	
	⑤その他謝礼	円	
	⑥交通費	15,000 円	1,500円×10人×1日=15,000円
	⑦保険料	円	
	⑧その他諸経費	円	
	⑨感染症等対策経費	14,464 円	※上限額2万円以内 (20,000)
			手指消毒剤代1,375 円×7本 =9,625円 除菌クロス720円×5個 =3,600円 マスク代1,239円
	⑩人件費	84,000 円	※下記「事業費」の25%以内 (91,497)
			（団体構成員分）時給1,200円×7時間×7人×1日 =58,800円 （アルバイト分）時給1,200円×7時間×3×1日 =25,200円
事業費（①から⑩の合計）		358,493 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費	円	※事業費の5%以内 (17,924)	
⑫助成対象経費 （事業費＋⑪）		358,493 円	
⑬助成対象外経費		円	
事 業 総 額		358,493 円	

収入区分	内 容		予 算 額	積 算 根 拠（内 訳）
	㉚ 事業収入（参加料、資料代等）		25,000 円	参加料 500円×50名×1日 =25,000円
	① 寄附金		円	
	㉛ 補助金等収入		円	
	㉜ 協働推進基金助成金		186,000 円	「①～⑨、⑪～⑬の合計」の1/2と「⑨」の合計 ※千円未満切り捨て
	㉝ 団体負担金		147,493 円	
	収入総額		358,493 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじん りんしょうけんさしえんきょうかい 特定非営利活動法人 臨床検査支援協会	
所 在 地 (主たる事務所)	[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]	
代 表 者 氏 名	(ふりがな) みやざわ ゆきひさ 宮澤 幸久	
	連絡者氏名 [REDACTED] 住所 [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] 電話 [REDACTED] FAX [REDACTED] e-mail [REDACTED]	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立 2018年2月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月(年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人: 団体: 47	入会条件 特に条件はありません。約款で理事長は入会申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならぬと定めています。
主 な 活 動 地 域	東京都 新宿区・中野区 その他(全国 主に関東圏)	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) ☒ (年 回発行) / 無 (ホームページ) ☒ (URL https://www.asci.or.jp) / 無	
団 体 の 目 的 (定款の目的)	この法人は、広く一般市民を対象として、臨床検査に携わる人材の確保と質の向上を支援する事業及び臨床検査の普及啓発に関する事業等を行い、臨床検査を通じて国民の健康と医療の発展に貢献することを目的としています。	

主　な　活　動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動 ・令和 6 年度新宿区協働推進基金助成金事業として、令和 6 年 11 月 17 日に柏木地域センターで行われた第 30 回新宿かしわまつりに出展し、健康体験コーナーと健康セミナーを開催した。 ・令和 6 年度新宿区協働推進基金助成金事業として、令和 6 年 12 月 15 日に榎町地域センターで健康体験フェアと健康セミナーを開催した。
新宿区との連携実績	上記以外の活動 ・印刷物の作成と配布:コロナ検査、健診項目検査小冊子 ・最新医療情報の提供:第 4 号機関誌(2024 年 3 月)、第 4 号座談会誌(2024 年 3 月)企業団体向け WEB セミナー(計 10 回) ・第 64 回日本臨床化学会年次学術集会でパネル展示(2024 年 8 月 30 日～9 月 1 日) ・健康フェアの開催:中野区健康体験フェア(2023 年 2 月 18 日、3 月 18 日)第 17 回ふなばし健康まつり(2023 年 11 月 5 日)、中野区がん哲学連絡会フェア(2023 年 12 月 2 日)、中野区パネル展示

令和7年度協働推進基金助成金 一般事業助成二次評価(公開プレゼンテーション)

◇日時:令和7年5月26日(月) 午後4時25分～

◇会場:新宿区役所本庁舎3階 302会議室
(新宿区歌舞伎町一丁目4番1号)

特定非営利活動法人 臨床検査支援協会(ASCL)

〒164-0011東京都中野区中央1-44-6 ステージ中野坂上100
TEL/FAX:03-5937-1396 URL:<https://www.ascl.or.jp>

ASCL 特定非営利活動法人 臨床検査支援協会とは

Association for Support of Clinical Laboratory: ASCL(アスクル)

本法人は、広く一般市民を対象として臨床検査技能の向上支援、検体検査の精度向上、学術講演会企画開催、臨床検査及び臨床検査技師の社会的認知向上のための普及啓発を行なう非営利団体です。

これらの活動を通じて、保健医療を担う人材の確保と質の向上を図り、ひいては国民の健康と医療の発展に貢献していくことを目指しています。



特定非営利活動法人 臨床検査支援協会

理事長 宮澤 幸久

事業活動例(1) ～講演会、座談会の企画開催～



2024.11.5

お知らせ

心不全の診断と検査

第5回座談会を開催しました。テーマ「BNP vs. NT-proBNP」について、検査の使用状況、使い分け、臨床検査としてのメリット、デメリットなど、話題豊富な内容となっています。現在、編集作業中で、誌面として発刊する予定です。

第71回日本臨床検査医学会学術集会 スポンサードシンポジウム

第7回臨床検査支援協会（ASCL）セミナー

2024年11月30日(土) 14:30～16:30

第6会場 10F 会議室1002

第1部 ASCL活動報告

14:30～14:40

石橋 みどり 新東京病院（ASCL副理事長）

座長：高橋 伯夫 琵琶湖養育院病院（ASCL監事）

第2部 在宅医療における臨床検査を知る2024

14:40～16:30

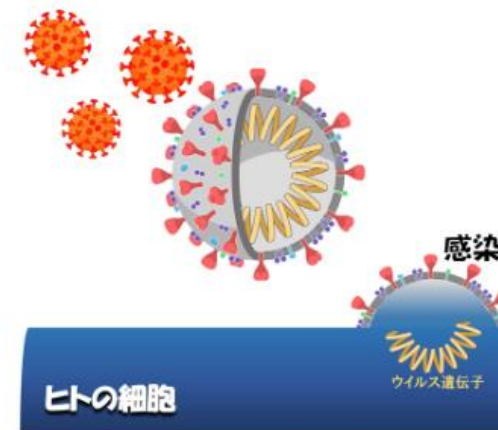
座長：諏訪部 章 新東京病院／坂本 秀生 神戸常盤大学

事業活動例(2) ～印刷物の制作発行～

2022
July No3
第3回ASCL座談会

動脈硬化性疾患予防の
ガイドライン改訂と
脂質検査

特定非営利活動法人臨床検査支援協会
ASCL
Association for Support of Clinical Laboratory



監修:一般社団法人日本臨床検査医学会
新型コロナウイルスに関するアドホック委員会



事業活動例(3) ～イベントの開催～

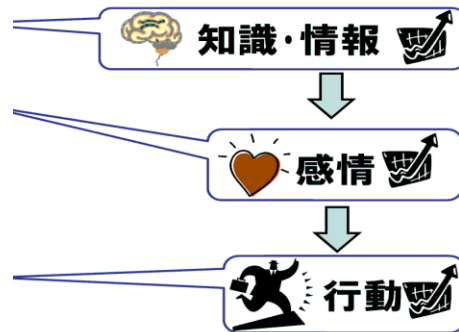
1. 健康日本21(第三次)の実現に貢献します。

「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」
「個人の行動と健康状態の改善」
「社会環境の質の向上」
「ライフコースアプローチ*を踏まえた健康づくり」

健康日本21:「21世紀における国民健康づくり運動」

2. 行動変容を促し、健康寿命の延伸を目指します。

行動変容が起きる基本原理

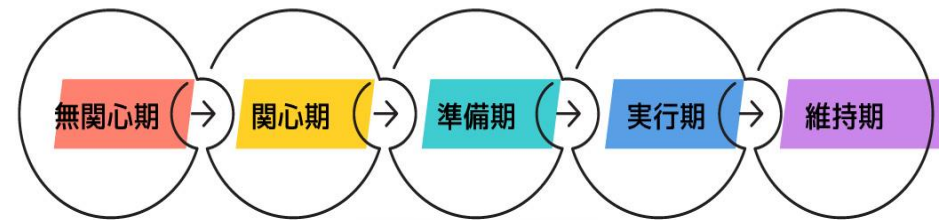


知識や情報を得て、「感情」が変化することで初めて行動変容が起きる

Copyright © by Milestone Inc. All right reserved.

気軽に出掛けて
気楽に受けて
気に留めて

人間の行動変容



問題に気づいていない、過小評価・無かったことにしてしまう時期

問題に気づいているけれども、まだ行動に移す準備が整っていない段階

実際に行動変容に向けて準備し始める段階

本格的にダイエットや禁煙などの行動変容に

ようやく継続の維持期

健康体験フェアの実際

第30回 新宿かしわまつり 健康体験コーナーと健康セミナー



開催時間

健康体験コーナー 10:30~14:30
健康セミナー 12:30~13:00

場所 柏木地域センター 1階 会議室2

参加費 500円 (区内在住の方、50名程度)
お申込みは当日直接、会場にて



「**採血なし**」で下記5種類の測定ができます

もの忘れ

骨密度 血管年齢 プログラム AGEs 肌年齢
骨の健康 あなたの血管 楽しく頭の 老化の 気になる
チェック の硬さは? トレーニング 原因です!! 肌年齢!!

このイベントは令和6年度新宿区協働推進基金助成事業です。

「ASCLは臨床検査について理解を深め、正しい知識の情報を提供する団体です。
特定非営利活動法人 臨床検査支援協会 (略称ASCL)
TEL/FAX 03-5937-1396 HP: <https://www.ascl.or.jp>

2024.11.6

お知らせ

東京都新宿区で「健康体験コーナーと健康セミナー」を開催します。一般の人を対象として、血管年齢や肌年齢な、AGEsなど、様々な簡易の機器を用意して測定します。都内に在住の方は、ご家族や友人達とぜひご来場ください。



条件:病気の診断、治療法、検査結果の評価など、回答を致しません。

健康体験フェアの開催

①骨密度

骨の健康をチェック

②血管年齢

血管の老化を知る

③AGEs

老化の原因物質を測定

④もの忘れプログラム

楽しく頭のトレーニング

⑤肌年齢

肌の状態を年齢化



① 骨密度測定



③ AGEs検査



⑤ 肌年齢測定



② 血管年齢測定



④ もの忘れプログラム

新生！「新宿ソダチ」発行をいたしました！ | お知らせ | 新宿区地域振興部地域コミュニティ課 | 新宿区民活動支援サイト 新宿キラミラネット より

ミニセミナーの開催

2024年度の実施テーマ

インフルエンザ

- インフルエンザウイルスのその正体と脅威
- 感染対策としての飛沫感染、接触感染、室内環境

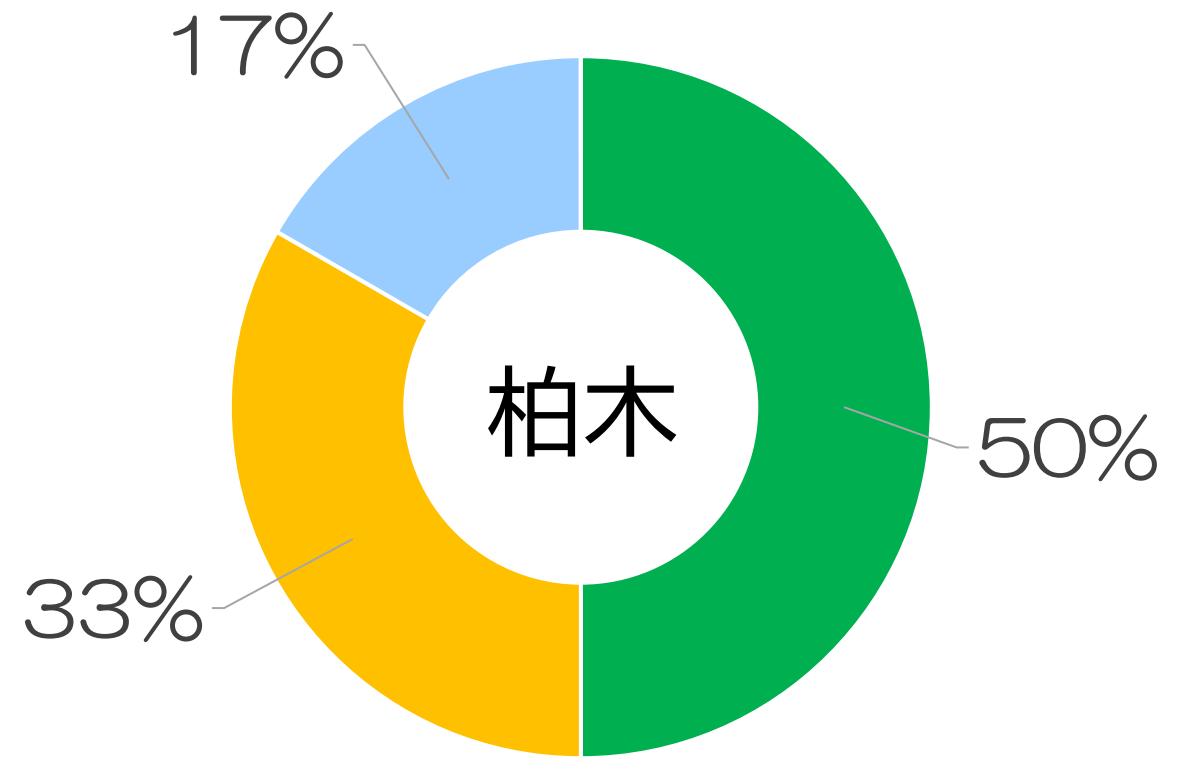
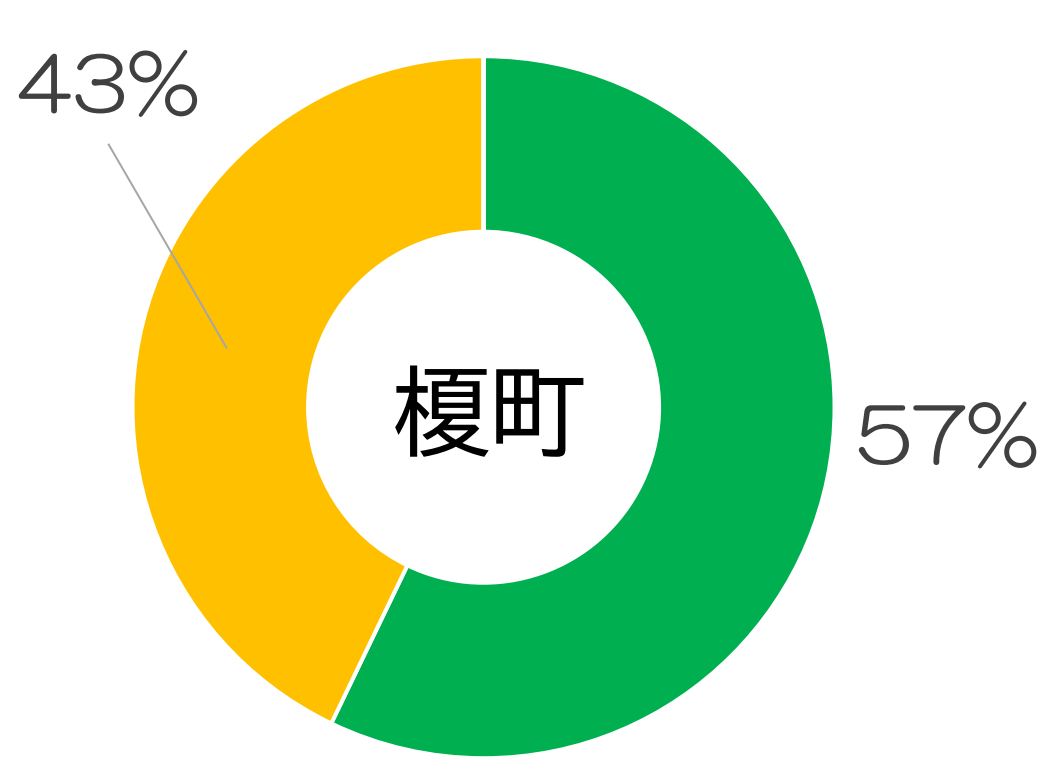
その他のテーマ(例)

感染症の予防と消毒法

- 食中毒を起こす感染症とその予防
- 細菌やウイルスの消毒法を知る



新宿区(榎町、柏木)のアンケート集計結果



- 是非参加したい
- 都合が合えば参加したい

- どちらともいえない
- 参加する予定はない

前回の健康フェア「アンケート」からの改善点

【問題点】

- 待ち時間が長く、全て測定が受けられなかった
- 並ぶ場所がわからない
- 受験者への案内不足、スタッフ準備不足 など

【ご指摘を受けた内容からの改善策として】

- スタッフの事前トレーニングができるよう調整する
- 各測定の結果に関する簡単な説明書を用意する
- 測定時間の短い機器へ変更し、待ち時間の短縮を図る
- 肌年齢の待ち時間の短縮については測定者と説明者を分ける
- 肌年齢プライバシー対策については配置を工夫する

「新宿区健康づくり行動計画」への提案

- 検診受診率の15%アップを目指す。
(健康日本21 第3次評価より)
- 新宿区特定健康診査の受診率34.4%を60.0%に増やすことへの支援
- 健康に関心の薄い方など、幅広い世代に対して、生活習慣を改めることができるようなアプローチ

ご清聴ありがとうございました

特定非営利活動法人 臨床検査支援協会

Association for Support of Clinical Laboratory(ASCL)

〒164-0011東京都中野区中央1-44-6

ステージ中野坂上100

TEL/FAX:03-5937-1396

URL:<https://www.ascl.or.jp>

令和7年度一般事業助成 事前質問確認表
団体名:臨床検査支援協会

質問内容
前回は2回実施していた事業だが、今回は1回とした理由を示してほしい。
他のイベントと合同で実施するなどの計画はあるのか。
実際の健康診断等につなげるための枠組み(保健センターとの連携など)作りの計画はあるのか。

助 成 事 業 計 画 書

団体名	特定非営利活動法人 SAYi
事業名	性について語り合える場づくりプロジェクト ～SAYi in 新宿～
① 事業目的・事業概要	<事業目的> 性やジェンダーに関する悩みや不安を、安心して語れる社会をつくることを目的とする。パートナーとの性の悩みやセックスレス、子どもへの性教育、フェムテック、自己決定権といったテーマに関心を持つ区民に対し、安全で開かれた対話の場を提供し、多様な価値観が尊重される地域社会の実現に寄与する。誰もが「話してよかった」と思える空間づくりを通じて、性にまつわる孤立や誤解を減らし、共生と自己尊重の文化を育む。 <事業概要> 新宿区内にて、月1回以上の対面交流会（レンタルスペース）、月2回以上の Zoom 交流会、さらに個別相談（新宿区内カフェ等）を実施。交流会では性やジェンダーに関するテーマごとの少人数対話を実施し、個別相談では専門カウンセラーが1対1で対応する。参加者からの声を元に柔軟にテーマを設定。また、広報活動として Google 広告・SNS・区施設でのポスター掲示を行い、特設ホームページで情報発信と寄付・相談受付体制を整備。活動は単発で終わらず、寄付や連携によって継続・拡大を目指す。
② 地域課題・社会的課題	性に関する悩みや不安を抱えている人は多いものの、タブー視されがちな側面もあり、それを安心して話せる場は非常に限られており、孤立感や心理的負担を抱える区民、国民が一定数存在している「隠れた社会問題」であると考える。 例えば、2022年のNHKの調査によれば、夫婦の約47%が「セックスレス」状態にあると回答しており、特に20～40代でその傾向が顕著である（NHK「人間性調査2022」より）。また、国立社会保障・人口問題研究所のデータによれば、離婚件数の増加要因の一つとして「性格の不一致」に次いで性に関する価値観のずれや満足度の低下が挙げられている。 一方で、2024年に本団体が実施した参加者アンケート（有効回答数 125件）では、以下のような結果が得られている： 「日常生活で性の話題について安心して話せる場所がない」：86% 「家族やパートナーとの性に関する悩みを抱えている」：72% 「イベント後、気持ちが軽くなった・相談先を得たと感じた」：98% これらの結果は、性に関する悩みを開示できる場の不足と、それに伴う孤立・不安の深刻さを示している。また、新宿区は都内でも特に多様なライフスタイル・背景を持つ人々が集まる地域であり、多様性ゆえの摩擦や孤立が発生しやすい地域でもある。 現時点で新宿区には、性に関する個別相談を日常的に受けられる公的な窓口は限られており、ジェンダーや性の悩みを安心して話せる場づくりは喫緊の課題である。

③課題解決のための取組	性に関する悩みを安心して話せる場の不足という課題に対し、区民が気軽に参加できる少人数制の交流会や個別相談の場を定期的に提供することが重要であると考える。特に、パートナー間のコミュニケーション不全や、性教育への不安、性に関する情報へのアクセス困難といった課題には、日常的で柔らかい場づくりが必要である。 そこで本事業では、新宿区内のレンタルスペース等を活用して、月1回の対面交流会を実施し、テーマに応じた対話型プログラムを展開する。また、月2回のオンライン（Zoom）交流会も開催し、外出が難しい方や育児・介護中の方の参加も可能とする。さらに、相談しづらい個別の悩みに対応できるよう、新宿区内のカフェ等を用いた対面個別相談枠を新設する。 こうした継続的な取り組みにより、性に関する悩みを日常的に共有できる文化を育み、孤立の防止や心理的安全性の確保につなげることを目指す。
④先駆性・専門性	本団体は、「性に関する対話の必要性」を国内外の視点から深く捉えており、その点において高い先駆性と専門性を有している。 代表者は外務省元外交官として各国の文化や教育現場を経験し、特に海外の性教育と比較して日本の性に関するコミュニケーション不足や孤立の深刻さを痛感したことが活動の原点である。多様な国で培った知見と視野を活かし、日本特有における性のタブーを乗り越える実践的な場づくりを構築している。 また、構成役員には、心や身体に関する専門的な知識を有するセラピスト資格保有者が所属しており、自身の離婚・セックスレスなどの経験を持つことから、机上の理論ではなく当事者視点の共感的な支援が可能である。 本団体はすでに2023年の発足以来、対面・Zoom 含め40回以上の交流会・相談会を開催しており、延べ300名以上が参加し「誰にも話せなかったことが話せて救われた」といった好意的な感想も多数寄せられている。 その活動実績に基づき、今後は先進・国際都市である新宿を拠点として継続的に実施していく意義が大きい。 さらに、参加者の中にはフェムテック事業者や性教育に関心を持つ当事者が多く、今後の業務協力やボランティア参加につながる支援ネットワークの広がりも見込める。 以上のように、個人の経験・知識・国際的視点を融合したユニークな専門性と先駆性を発揮できる体制を有しており、本事業の実施にふさわしい団体である。

⑤ 具体的な活動 内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)	I イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：(性について語る対話会（対面）) 2. 活動内容： 性やジェンダーに関するテーマ（例：パートナー間の性、セックスレス、性教育、フェムテックなど）について、少人数でのグループ対話を行う。心理的安全性を重視した空間で、参加者同士が安心して話し合える場を提供 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（月1回、全10回予定） 4. 実施場所： 新宿区内のレンタルスペース等 5. 周知（募集）方法、期間： Google 広告、SNS、jimoti ホームページ、チラシ配布（新宿区内掲示板・区施設にて） 6. 対象者・定員数： 性や人間関係に悩みを抱える区民・在勤者（定員 各回10～15名） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（3）名 講師等（必要に応じ1）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ①会場にプロジェクターを設置し、テーマ・注意事項・進行内容を視覚的に提示 ② 司会進行は理事が担当し、対話の秩序と安心感を確保 ③ ファシリテーターが常駐し、参加者間のトラブルや発言偏りを防止 ④ 必要に応じて専門講師（医師・保健師・フェムテック関係者など）を配置 ⑤ 会場は換気・除菌対応済の新宿区内レンタルスペースを使用 ⑥ 参加者は事前申込制とし、目的を把握したうえで対応 ⑦セクハラ・出会い目的の行為は禁止し、違反時は参加中止・出入り禁止とする

	Ⅱ イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：（性の悩みを語る ZOOM 会） 2. 活動内容： 性の悩み等についてオンラインで気軽に語れる場を提供。Zoom のブレイクアウト機能を活用し、少人数対話を実現。カメラ・音声 OFF 参加も可能とし、参加のハードルを下げる。 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（月2回、全20回予定） 4. 実施場所： オンライン（Zoom） 5. 周知（募集）方法、期間： ホームページ、SNS、jimoti, Peatix 等のイベントサイト 募集期間：開催日の4週間前～前日まで 6. 対象者・定員数： 幅広い年齢層の新宿区民および必要に応じ区外希望者（定員 各回10名程度） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（3）名 講師等（必要に応じ1）名 アルバイト（ ）名 ボランティア（ ）名 8. 安全対策等： ①Zoom ミーティングにはパスコードと待機室を設定し、部外者の無断参加を防止 ②カメラ・音声 OFF 参加 OK とし、プライバシーに配慮した環境づくりを徹底 ③参加申込時に目的・同意事項を確認し、不適切な参加者の排除を徹底 ④ファシリテーター（理事または運営スタッフ）が進行・モニタリングを行い、荒らし・ハラスメント対策を実施 ⑤録音・録画は禁止とし、違反時は強制退出措置 ⑥参加後に簡単なアンケートフォームでフィードバックを回収し、継続改善に活かす ⑦必要に応じてオンライン相談対応ができる専門スタッフを配置（例：保健師・臨床心理士等）

	Ⅲ イベント（会議）の開催予定等
	1. イベント（会議）名：（性の悩みに関する個別相談会） 2. 活動内容： 対面・ZOOM 会では話しづらい、または多人数の場での発言にためらいがある方に向けて、1 対 1 での個別相談の機会を提供する。パートナーとの性の悩み、セックスレス、性に関する不安、子育て中の性教育の悩み、自身の性のあり方についての葛藤など、より深く個人的な相談内容に対応する。新宿区内の落ち着いたカフェや個室スペースにて実施し、必要に応じて専門のカウンセラーや医療・性教育に関わる講師が対応する。話すことで「心が軽くなった」「一人ではなかった」と感じられる時間を提供する。 3. 実施期間、回数： 令和7年6月～令和8年3月（1 ヶ月 10 枠、年間最大 100 回を予定） 4. 実施場所： 新宿区内のカフェ、個室付きレンタルスペース等（参加者の希望と相談内容に応じて選定） 5. 周知（募集）方法、期間： SAYi 公式ホームページ上の専用予約フォームから随時受付 交流会・イベント・チラシ等で QR コードを掲載し案内 募集期間：常時受付、希望日時に応じて調整・実施 6. 対象者・定員数： 性や人間関係の悩みを個別に相談したい新宿区民・在勤者等 （定員：1 名／1 枠 × 最大 100 枠） 7. 人員・スタッフ数 団体構成員（各回 1）名 講師等（必要に応じ各回 1）名 アルバイト（必要に応じ各回 1）名 ボランティア（必要に応じ各回 1）名 8. 安全対策等： ①完全予約制・1 対 1 の個別相談形式で実施し、相談目的を事前に確認 ②実施場所は静穏・安全が確保されたカフェや個室スペースに限定 ③異性間相談時には同性スタッフの同席または見守り体制を検討 ④利用者には事前に利用規約へ同意してもらい、セクハラ・出会い目的等の行為を禁止 ④相談内容の記録は最小限かつ適切に保管し、プライバシーを厳守 ⑤万が一のための緊急連絡体制・相談員報告フローを団体内で整備

⑥ 期待される効果	ア 区民や地域社会への成果・効果 ①性に関する悩みや不安を安心して話せる場が新宿区内に継続的に設けられることで、心理的な孤立感の軽減と、心の健康の向上が期待される ②保護者・教育関係者・若者など幅広い区民層が、性教育やジェンダーについて学ぶきっかけとなり、家庭や学校内での前向きな対話が増える ③新宿区内のレンタルスペース・カフェ・企業・フェムテック事業者などと連携しながら実施することで、地域経済・地元企業とのつながりも生まれる ④他 NPO 法人や福祉関係団体と協働し、「性を話せる場」が地域資源として定着する可能性がある ⑤区民参加型の交流・相談・発信の場を通じ、共生社会・ジェンダー平等の機運を地域全体で醸成していく土台をつくる
	イ 現状や課題に対する成果・効果 ①対話の場が不足していた「パートナー間の性の悩み」「性教育の不安」「自己肯定感の低下」などの課題に対し、具体的な支援策（相談・学び・対話）を提供することで課題を緩和 ②従来のイベントでは参加しづらかった人（恥ずかしさ、個人的事情など）に向け、個別相談枠を通じて“自分ごと”として向き合える支援を実現 ③新宿区の多様性・国際性ゆえに生じる「文化や価値観の違いによる性の孤立」に対応するため、多文化・多世代を意識したテーマ設計を実施 ④現状、自費・ボランティア的に行っていた活動を助成により安定化することで、持続可能な課題解決の仕組みとして定着を目指す
⑦ 今後の展望	本事業は単発的なものではなく、今後も団体として一生涯をかけて継続していくべきライフワーク的なテーマと捉えている。性に関する対話の場を日常的に持つことは、心の健康・人間関係・家庭・教育すべてに関わる社会基盤であり、今後はさらに幅広い層へ届けていきたい。 特に、今後は青少年・学生世代に対する性教育や自己肯定感の育成にも力を入れ、学校・保護者・地域が連携して対話できる仕組みづくりを行っていく予定である。その一環として、国の関連機関（厚生労働省・文部科学省・こども家庭庁等）や、性教育に関する海外 NPO・教育機関との情報共有・連携にも積極的に取り組みたい。 本助成期間内には、寄付機能付きホームページの強化や SNS 運用の拡充、参加者や協賛企業とのネットワーク形成など、将来的な資金確保につながる基盤整備を進める。イベントの一部有料化や、個別相談の継続的な寄付モデルへの転換も検討しており、助成終了後も自走できる体制づくりを目指す。 また、将来的には本事業を他地域・他自治体にも展開可能なモデルケースとして育て、新宿区から始まった活動が全国・国際的なムーブメントにつながるよう取り組みを継続していく。

⑧ 過去にこの助成を受けた実績	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
	助成年度（ ） 事業名（ ）
⑨ この事業に対する他の助成の有無 (申請中のものを含む)	☐ 有 ☒ 無
	有の場合は、助成名称（団体）及び助成額 助成名（団体名）： 助成額： 円 ※新宿区の他の助成制度からの助成が決定した場合には、本助成金は受けられません。新宿区以外の団体からの助成金がある場合には、その金額を差し引いた額が本助成額になります。本助成金への申請後に、同事業で新宿区外の補助金へ申請される際は、必ずご相談ください。

収支予算書

費 目		予 算 額	内 訳
事業費	①使用料及び賃借料	58,200 円	レンタルオフィス新宿、対面イベント10回分 (平日1時間1,455円×4時間(準備撤収含)×10イベント)
	②消耗品及び印刷費	20,000 円	イベント告知用ポスター印刷A2(2,000円×10枚)
	③委託費	0 円	
	④講師謝礼	50,000 円	医療関係者・専門家等(5回×10,000円)
	⑤その他謝礼	70,000 円	個別相談対応相談員謝礼:5,000円×10回 イベント対応ボランティア謝礼20,000円(2,000円×各1人×10)
	⑥交通費	70,000 円	①対面イベント12回×スタッフ3人×1,000円=36,000 ②個別相談場所への移動30回×1,000円=30,000 ③打合せ・備品調達・その他調整業務4回×1,000円=4,000円
	⑦保険料	0 円	
	⑧その他諸経費	58,985 円	ZOOM Workplace Pro(年額サブスク契約23,985円)会議用イベント用プロジェクター代(35,000円)
	⑨感染症等対策経費	0 円	※上限額2万円以内(20,000)
	⑩人件費	93,750 円	※下記「事業費」の25%以内(109,062) 内訳 ①役員1(事務全般、広報、SNS担当) →月3.5h×10か月×時給1250円=43,750円 ②役員2(イベント予約、出欠管理担当) →月2.5h×10か月×時給1250円=31,250円 ③役員3(会計処理等担当) →月1.5h×10か月×時給1250円=18,750円
事業費(①から⑩の合計)		420,935 円	
⑪ファンドレイジングに関する経費		21,047 円	※事業費の5%以内(21,047) jimoty広告費上位表示オプション12000×2=24,000円 24,000円のうち2,953円は助成対象外事業費へ (イベント募集ページ等10回×2、上位表示させるもの。 当法人の主要広告媒体)
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)		441,982 円	
⑬助成対象外経費		327,953 円	ホームページ制作費30,000円(予約・寄付・相談フォーム等) その他予備費25,000円(会議・イベント時軽飲食代等) ⑪ファンドレイジングに関する経費2,953円(助成対象外分)
事業総額		769,935 円	

収入区分	内 容	予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)
	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	350,000 円	対面交流会 2 0 0 0 円× 1 0 名× 1 0 回 個別相談 5 0 0 0 円× 3 0 枠 (別紙：個別相談料妥当性の算定)
	㊧ 寄附金	57,000 円	
	㊨ 補助金等収入	0 円	
	㊩ 協働推進基金助成金	294,000 円	「㊧～㊨、㊪～㊫の合計」の2/3と「㊩」の合計 ※千円未満切り捨て
	㊬ 団体負担金	68,935 円	
	収入総額	769,935 円	

団 体 概 要 書

団 体 名	(ふりがな) えぬびーおーほうじんせいあい NPO法人SAY i	
所 在 地 (主たる事務所)		
代 表 者 氏 名	(ふりがな) さとう きよたか 佐藤 清貴	
	連絡者氏名 住所 電話 FAX e-mail	
設立(活動)開始年月 (法人設立年月)	法人の場合 法人設立2023年7月 その他の場合 年 月活動開始 活動歴 年 か月 (年 月末日現在)	
会 員 数 (構 成 員 数)	個人：45 団体：	入会条件 定款上は条件なし (推奨) ・性に関する課題やテーマに関心がある方 ・性教育やフェムテック、心と体の健康、パートナーシップについて学びたい方 ・他者を尊重し、安心・安全な対話の場づくりに協力いただける方 ・本法人の活動趣旨(学び・共有・対話・相談)に賛同していただける方
主 な 活 動 地 域	東京都新宿区／中央区のレンタルスペース等	
広 報 関 係 の 有 無	(会報、広報誌等の発行) 有 (年 回発行) / 無 (ホームページ) ⑦ (URL https://say-i.org/) (ブログ) ⑦ (URL https://note.com/npo_sayi)	

団 体 の 目 的 (定款の目的)	この法人は、主に女性とそのパートナーを対象として、女性が抱える「性」に関する不安や悩み等に寄り添うべく、専門家等と連携しつつ『「女性の性や正しい 性知識」を「知り、考え、語り合う」交流会、勉強会やセミナー等の場』を提供する事業を行い、かつ正しい性知識等に関する普及活動や情報発信を行うとともに、「性に関する相談事等に関する窓口」となることで、その悩みや不安等の軽減・解決に向けた社会づくりの実現に寄与することを目的とする。
主 な 活 動 (具体的に記入してください)	新宿区民を対象とした活動 ① 令和 5 年以降、都内イベントスペース（新宿区含む）にて月 1 回以上の性の悩み等をテーマにした対面交流会を、月 2 回の ZOOM 会を継続実施（計 4 0 回以上、3 0 0 名以上参加） ② 新宿区在住・在勤者の参加が一定数確認されており、参加申込フォームにて区民確認を実施 ③ 今後は新宿区カフェ・公共施設（例：新宿 NPO 協働推進センター）を中心にした定期開催を計画 ④ 区民にとって身近なエリアでの実施により、性に関する対話の場へのアクセス向上を見込む ⑤ 性の話題への不安・孤立の解消という新宿区の地域課題に対する取り組みとして、今後重点的に展開予定 上記以外の活動 ・性の悩み・人間関係に関する LINE オープンチャット型コミュニティを継続運営中 ・フェムテック・性教育・ジェンダー課題等をテーマに SNS やブログ等での発信活動を実施 ・医師・助産師・心理カウンセラー等との連携による勉強会や対話イベントを継続開催 ・匿名アンケートによる実態調査やレポート発信など、啓発型の情報発信にも注力 ・今後は、若者や保護者向け教材の制作・学校連携による性教育支援も展開予定
新宿区との連携実績	なし ・ 部署名 ・ 連携事例 ・ 連携した内容の詳細

NPO法人
SAYi



性のこともっと
話しませんか？

新宿区助成事業プレゼン(令和7年5月)

【本日の流れ】

- ① NPO法人SAYiとは
- ② これまでの活動実績
- ③ 今年度の助成事業の概要
- ④ 助成金の活用計画と必要性(収支含む)
- ⑤ 今後の展望と新宿区への貢献



SAY i

「ホンネ」を話そう

SAY:話そう

i:自分の思い

設立：2023年9月22日

会員：40名（5月現在）

運営：佐藤きよたか（理事長）

坂元ひろみ（理事長）

小山ちはる

遠藤かなえ

御船しんご（監事）

SAYiの目指す世界

①誰にも相談できない

②性はおふざけ
はしたない

③パートナーとの
コミュニケーション

④性教育
だいじょうぶ？



1/
性の「ホンネ」をもっとオープンに

2/
**カップル間の
「性コミュニケーション」**

3/
**日本の性意識、
性教育の「改革」**



実施事業

～2024年度



性の「ホンネ」の共有の場



カップルで考える「性」

2025年度～(助成)



専門家を招致／個別相談会



「意見交換」 「勉強会」



親視点「子供への性教育」



国、自治体等との協同

【707】



略 歴

学 歴	ロンドン大学卒
資 格	 国際マッサージ資格(VTCT)取得
職 歴	外務省(外交官)
趣 味	旅行(65か国制覇)
設立のきっかけ	・日本の性は遅れてる？
	・「性の悩み」は隠れた社会問題

理事長あいさつ(坂元ひろみ)

7

【2021】

略 歴



2000	短大卒
2001-2015	大手リラクゼーションサロン トップセラピスト
2016-2019	 ドイツ(バレエダンサー、オーケストラ奏者等の ボディメンテナンス)
2020年	プライベートサロンオープン
資 格	グランドマスターセラピスト(全国手技療法士協会)
	CIBTAC国際ライセンス

①対面交流会(月1回／中央区を中心)



②オンライン交流会(月2回／ZOOM)



【累計50回／400人以上参加】

- セックスレスに関して(予防・対処・きっかけ・心の持ちよう)
- パートナーとの「コミュニケーション、相性や価値観」
- ココロ・カラダのコンディション等の悩み
- フェムケア
- 男性心理、女性心理など

「これって私だけ?」「モヤモヤする...」「みんなどうしてる?」を共有できる場所

活動実績

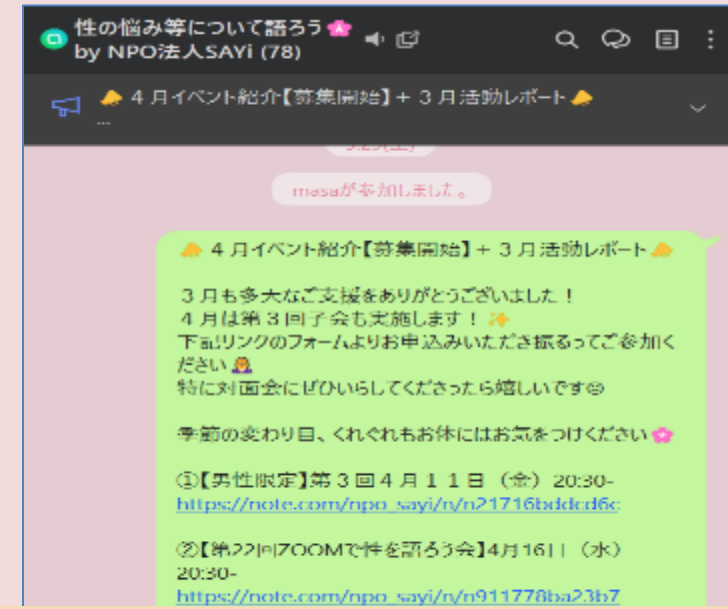
(2023～2024年度) 2/2

③情報発信(ブログ、ラジオ)



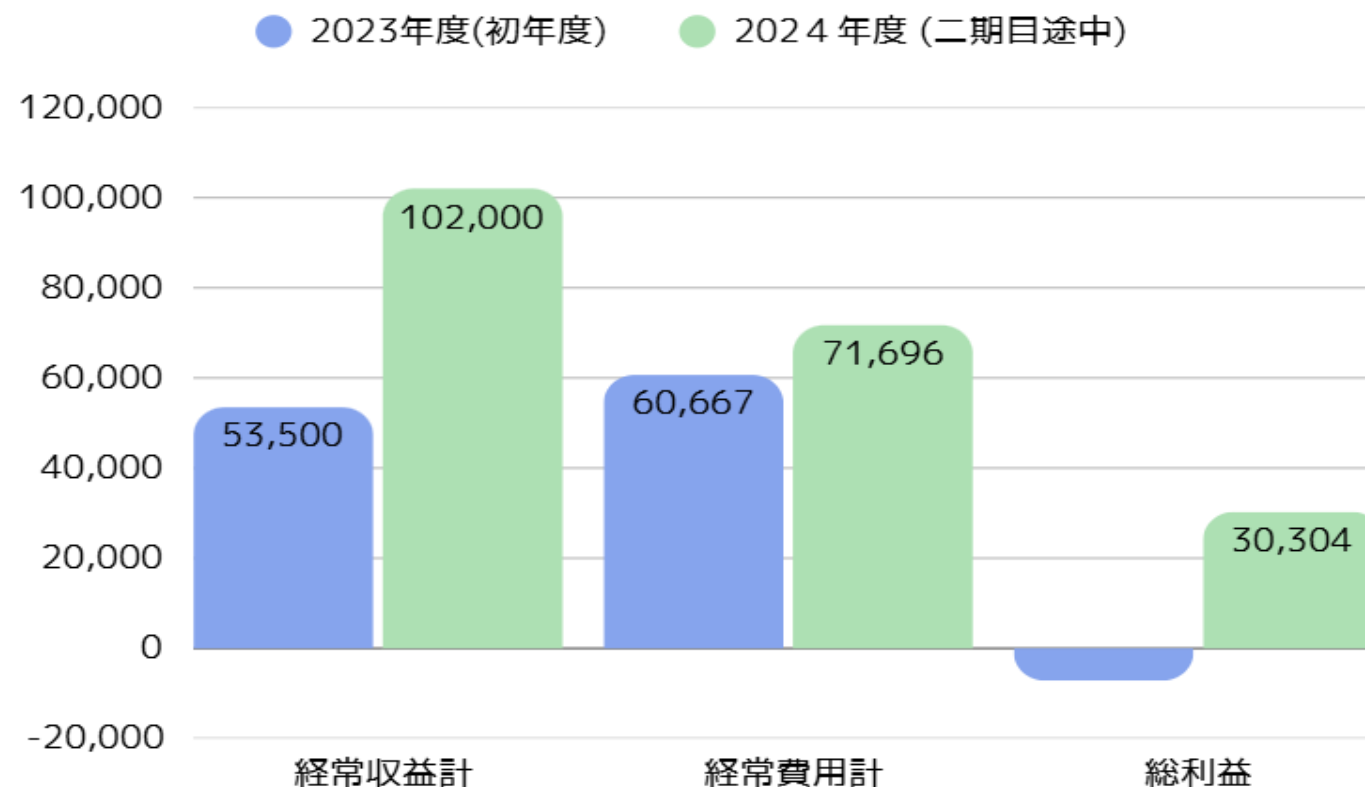
性知識に関するブログ、メディア出演(ラジオ)

②オンラインチャットサロン(LINE)



参加者相互の質疑応答など(現在約80名)

円	2023年度(初年度)	2024年度 (二期目途中)	前年比
経常収益計	53,500	102,000	90.65%
経常費用計	60,667	71,696	18.18%
総利益	-7,167	30,304	+522.83%



(恒常的にかかる経費: イベント会場費、通信費(ZOOM)、広告費等)

① 2023年度:(初年度)
ほぼ無償のボランティア体制
認知拡大と参加体験の促進、ニーズ調査



② 2024年度:(今年度)
対面イベントを有料化(2,000円)、
交通費および成果に応じた一部報酬支払いを開

③ 2025年度:(来年度)
・事業の収益化と適正な人件費支払い体制
→持続可能かつ支援強化拡大

新宿区で実現したいこと (令和7年6月～令和8年3月)

11

①意見交換会(月1回以上／新宿区)



【期間目標: 10回以上／区民等100人以上参加】

- 新宿区内の施設(レンタルオフィスタ)
- パートナー関係や性の悩み・不安など、テーマ別
- 事前予約・匿名参加も可
- 新宿区を中心とする団体、有識者を招いたセミナー等も
- 地域ネット広告(jimoti等)による広告

②個別相談カウンセリング(月10回／100人)



【期間目標: 10回以上／区民等100人以上参加】

- 新宿区内のカフェや個室空間で実施(60～90分)
- ZOOM相談も並行
- 必要に応じて医療・行政への案内や連携も対応
- 高齢、若年層やLGBTQ+など幅広い相談に対応
- 区施設や掲示板などを使って広報を行う

地域住民の“性”に関する悩みに寄り添い、安心して語れる場を提供する

収支予算（抜粋:助成対象品目）

費 目	アイテム名	アイテム写真	金 額	備考
①使用料及び賃借料	対面イベント用レンタルオフィス賃料		58,200円	対面イベント10回分 (平日1時間1,455円×4時間(準備撤収含)×10回)
②消耗品及び印刷費	イベント用ポスター		20,000円	ポスター印刷A2 (2,000円×10枚)
④講師謝礼	セミナー、勉強会等講師謝礼		50,000円	専門家等招致 (5回×10,000円)
⑤その他謝礼	イベント、個別相談対応者謝礼		70,000円	①個別相談対応相談員謝礼50,000円 (5,000円×10回) ②イベント対応ボランティア謝礼20,000円 (2,000円×各1人×10回)
⑥交通費	イベント、個別相談、打合せ等の移動		70,000円	①対面イベント12回×スタッフ3人×1,000円=36,000 ②個別相談場所への移動30回×1,000円=30,000 ③打合せ・備品調達・その他調整業務4回×1,000円=4,000円
⑧その他諸経費	①ZOOM ②会議用プロジェクター		58,985円	ZOOM Workplace Pro(年額サブスク契約23,985円) 会議用イベント用プロジェクター代(35,000円)
⑩人件費	役員3名分		93,800円	①役員1(事務全般、広報、SNS担当) →月3.5h×10か月×時給1250円=43,800円 ②役員2(イベント予約、出欠管理担当) →月2.5h×10か月×時給1250円=31,200円 ③役員3(会計処理等担当) →月1.5h×10か月×時給1250円=18,800円
⑪ファンドレイジングに関する経費	ジモティ広告		21,000円	新宿区民に向けた広告費上位表示オプション 12000×2=24,000円

NPO法人SAYi活動内容(直近2025年度の目標)

話してみませんか?
性のこと

こんなお悩み
ありませんか?

トークテーマ

- ・パートナーとのすれ違い
- ・フェムテックに関する疑問
- ・ココロ、カラダの悩み
- ・子供と性教育

3月15日(金) 14:00-16:00
〇〇レンタルスペース

新宿を中心としたイベント


担当カウンセラー

10:00-10:30	予約済み
10:30-11:00	空きあり
11:00-11:30	予約済み
11:30-12:00	空きあり
13:00-13:30	空きあり
13:30-14:00	空きあり
14:00-14:30	予約済み
14:30-15:00	空きあり
16:00-16:30	予約済み
16:00-16:30	空きあり

区民の悩みに寄り添う個別相談

寄付のお願い



寄付する

私たちの活動は、皆さまからのご寄付
によって支えられております。ご支援
のほどよろしくお願い申し上げます

東京 新宿区

寄付・支援基盤等の確立→HP再構築
(脱ボランティア、継続事業運営体制の確立)

NPO法人SAYi活動内容(将来目標)



行政・教育機関との連携強化

- 青少年に対する性教育
- 子育て世代対象の教育



新宿区内の団体・企業との連携

- 医療、子育て、福祉、人権系
- フェムテック、婚活系企業等



海外の性教育団体との連携

- 欧米（特オランダ、北欧等）
- 新宿を性教育の先進都市に

最後に(まとめ)

01

性の悩みは“隠れた社会課題”

「言わない」「言えない」「分からない」
「恥ずかしい」、「私が我慢すれば...」

多くの人が悩んでいる。



02

「性のあり方」への関心の高まり



「フェムケア」「フェムテック」
「LGBTQ+」
“自分らしく生きる、楽しむ”我慢しない”

という価値観の広がり。

03

地域と共につくる取り組み

自治体・他団体・企業と連携し、
対話と安心を届ける“まちぐるみの
コミュニティへ。



▶▶▶新宿から始める「性の悩みを抱えこまないモデル事業」